

観峰館の臨書作品（1）

— 王羲之「十七帖」をめぐって —

【観峰館オンライン講座】第6回

はじめに

講座の流れ

はじめに

王羲之《十七帖》について

観峰館の臨書作品について① 作品鑑賞

観峰館の臨書作品について② 比較分析

おわりに



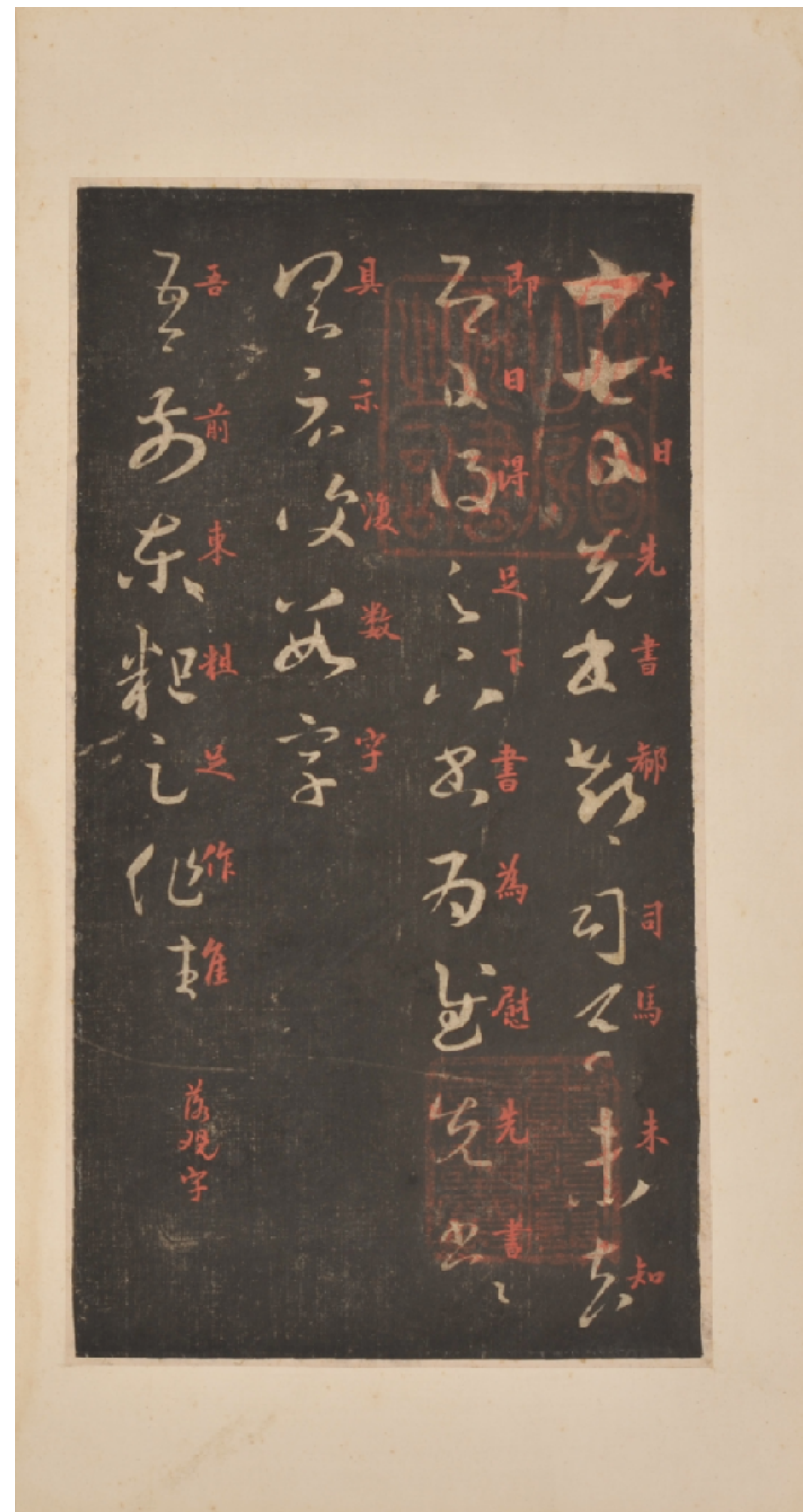
王羲之 《十七帖》 について



王羲之《十七帖》
原本：東晉時代
紙本墨拓、觀峰館藏

《十七帖》 解説

- 王羲之の、主に草書の手紙を集めた法帖。名称は巻首に「十七日」の語があることによる。
- 原本は伝えられていない。
- 三井本および上野本がとくに優れていると評価される。



王羲之《十七帖》
原本：東晋時代
紙本墨拓、觀峰館蔵

《十七帖》 解説

- 王羲之の、主に草書の手紙を集めた法帖。名称は巻首に「十七日」の語があることによる。
- 原本は伝えられていない。
- 三井本および上野本がとくに優れていると評価される。



王羲之《十七帖》
原本：東晋時代
紙本墨拓、観峰館蔵

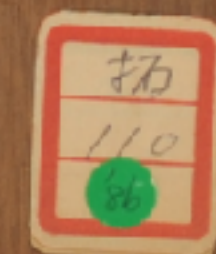
《十七帖》 解説

- 王羲之の、主に草書の手紙を集めた法帖。名称は巻首に「十七日」の語があることによる。
- 原本は伝えられていない。
- 三井本および上野本がとくに優れていると評価される。

王右軍十七日帖

題箋は…

王羲之《十七帖》
原本：東晋時代
紙本墨拓、観峰館蔵



観峰館の臨書作品について①

作品鑑賞

法在者必法為形曾見蜀中事云
朱者城池以在樓觀以是素時司馬
錯以情令人意相快然為亦不信也亦朱
愛仁今仁在法曰其出法遂亦不若今因
之六若其出可令必達 壬戌春仲書於
拙翁替軍法教 並田宋伯魯



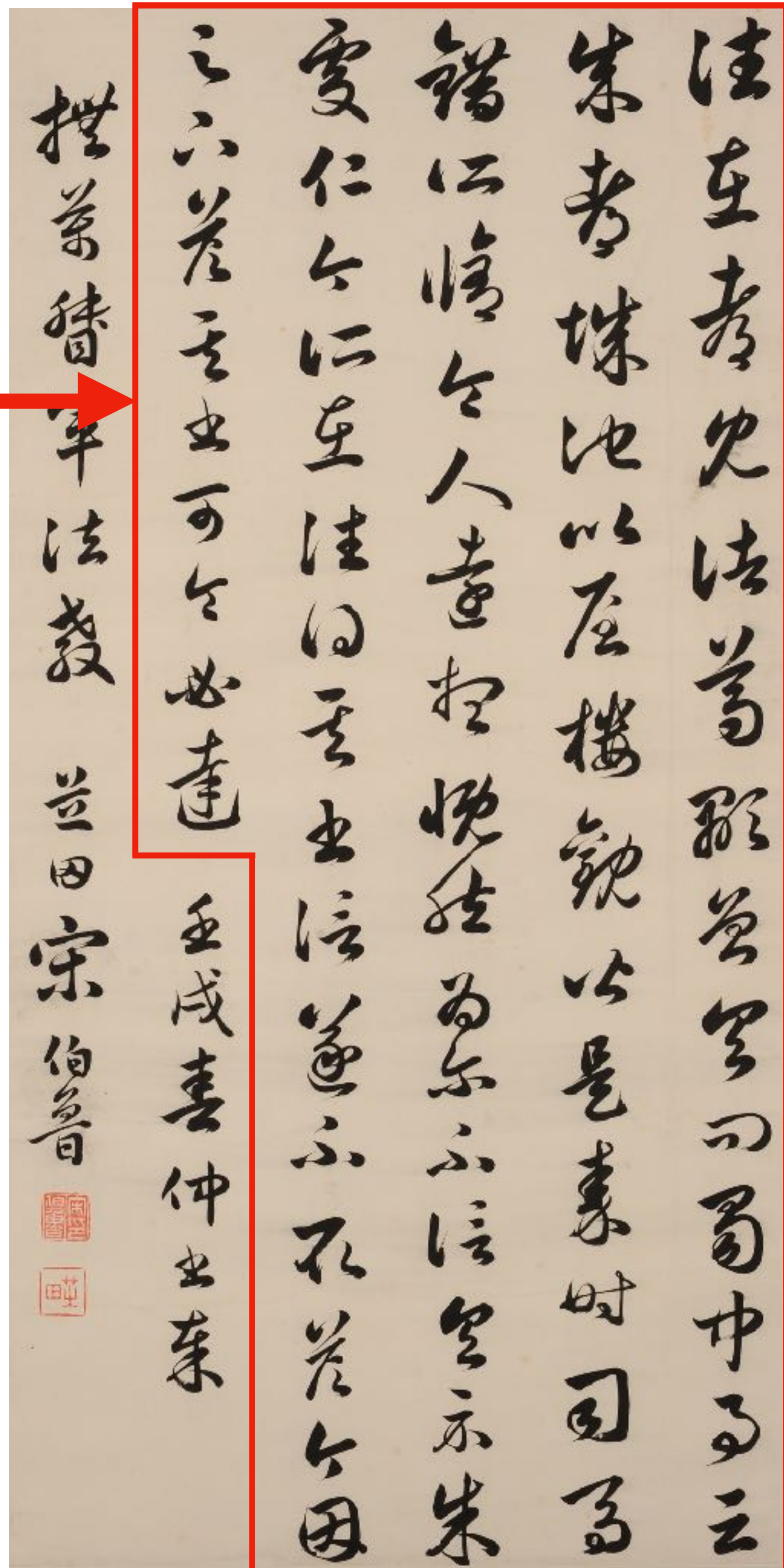
宋伯魯（1854~1932）

《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

《十七帖》の内、二通の臨書



宋伯魯（1854～1932）

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館蔵

法在者必法為形曾其司蜀中事云
朱者城池以在樓觀以是素時司蜀
錯以情令人意相快然為亦不信其亦朱
愛仁今仁在法曰其出法遂亦不若今因
之下若其出可令必達
壬戌春仲書奉
宋伯魯

「壬戌春仲書奉」

民國十一年（一九二二）

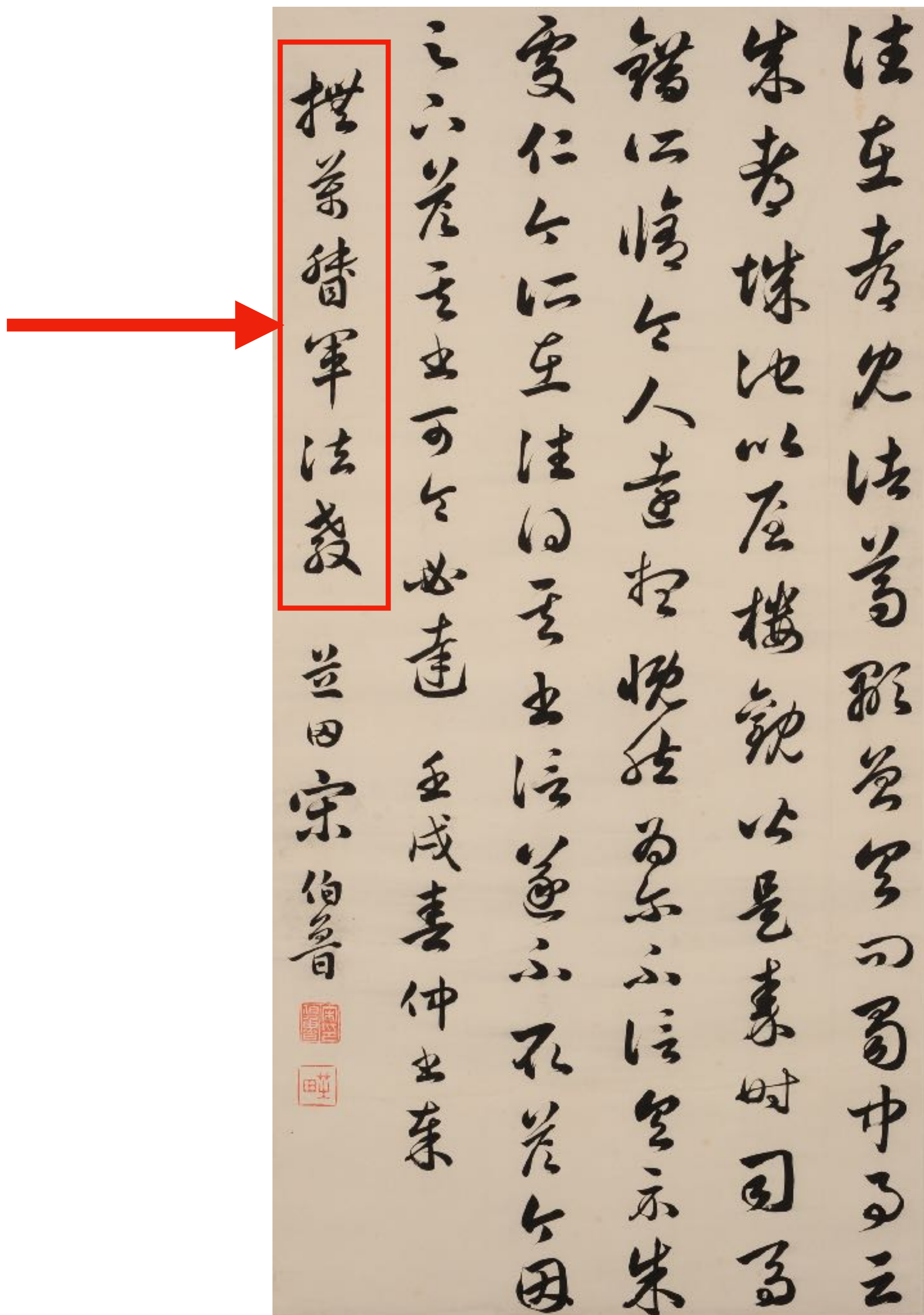
宋伯魯（1854~1932）

《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

「撫萬督軍法教」
作品の贈り先＝受取り主



宋伯魯（1854～1932）

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

法在者必法為形曾其司蜀中事云
朱者城池以在樓觀以是素時司蜀
錯以情令人意相快然為亦不信其亦朱
愛仁今仁在法曰其出信遂亦不若今因
之下若其出可令必達 壬戌春仲書於
拙翁替軍法教

芝田宋伯魯



「芝田宋伯魯」

署名

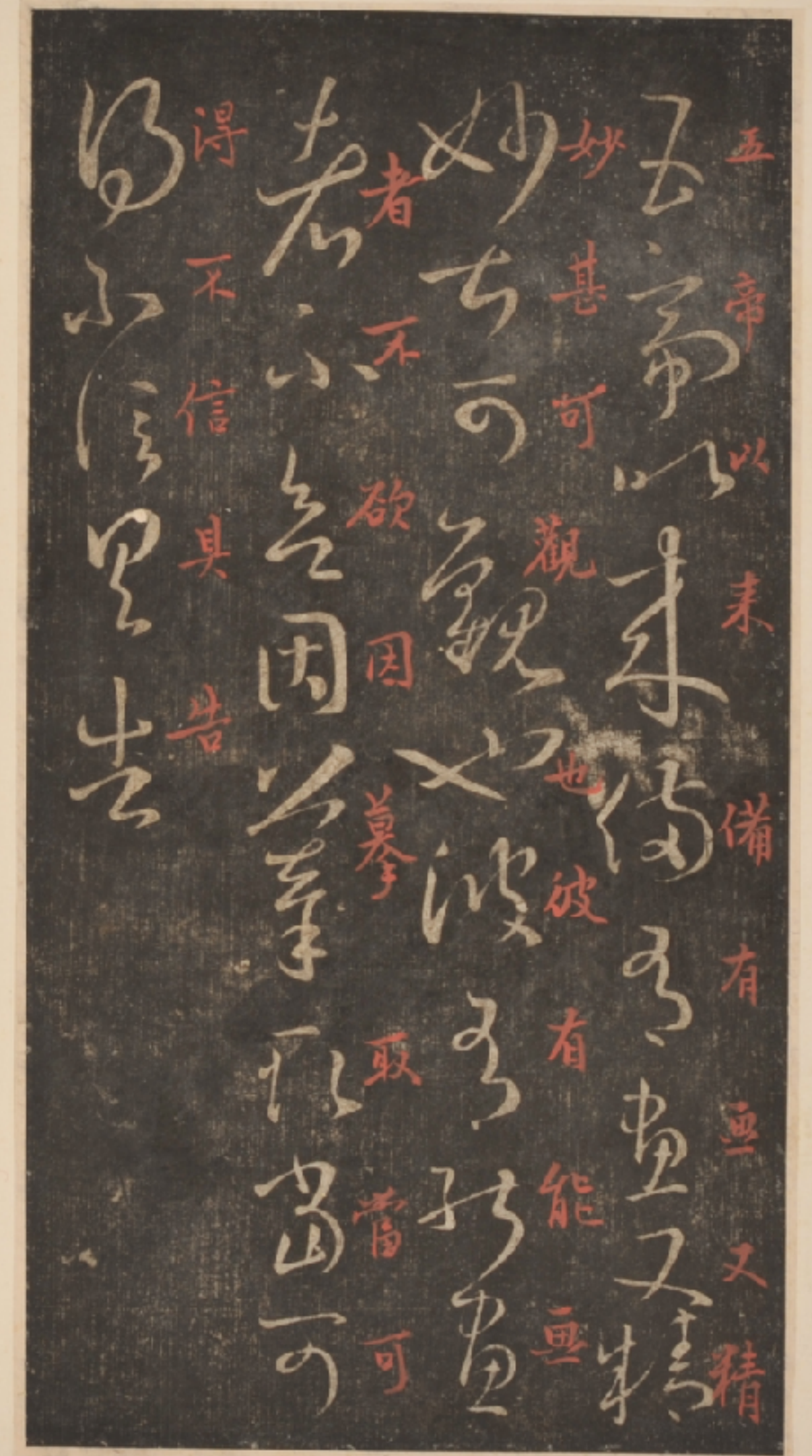
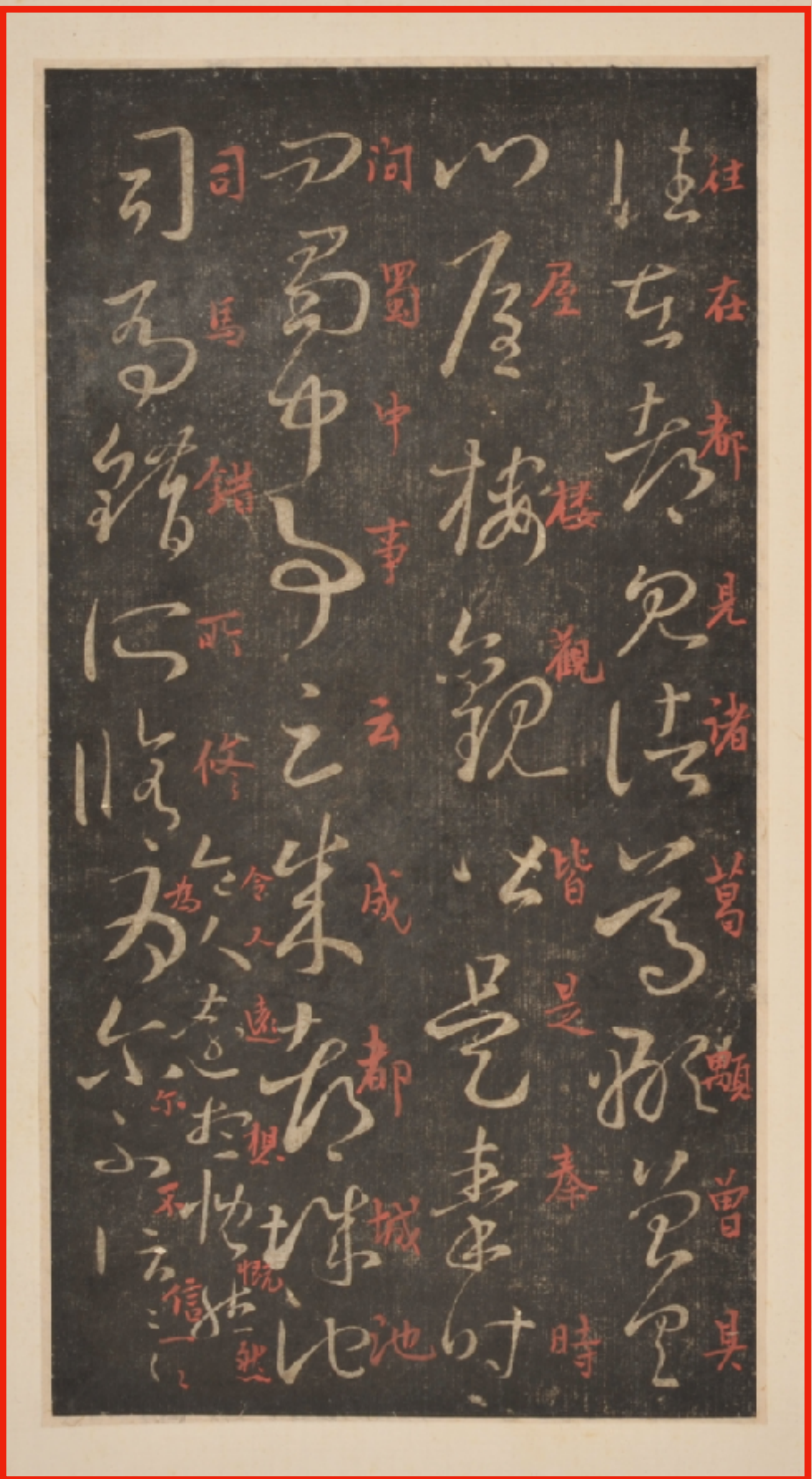
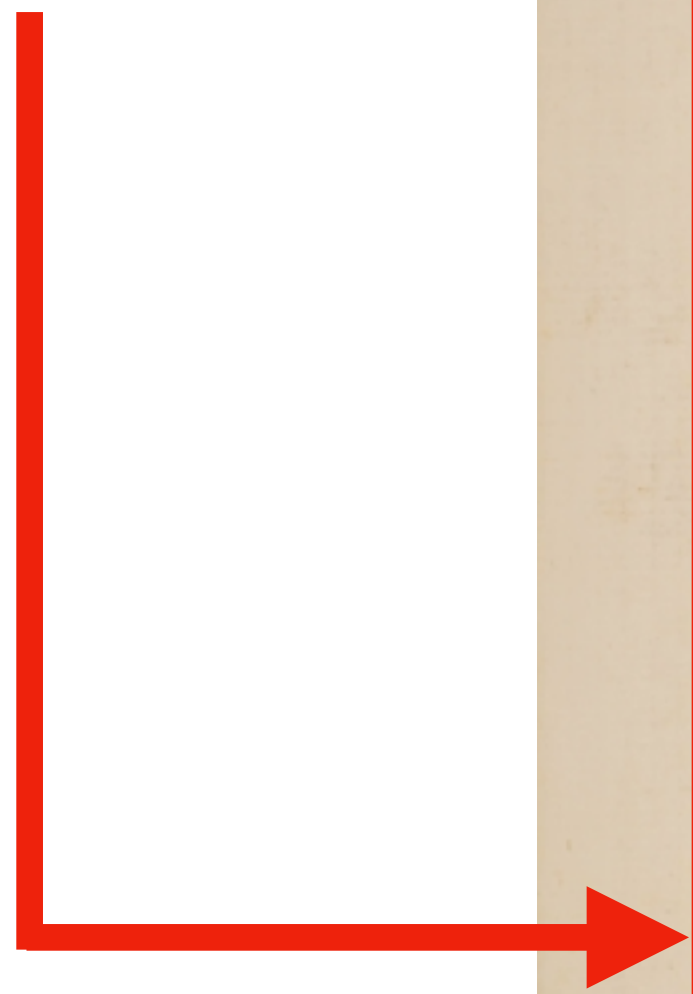
宋伯魯（1854～1932）

《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

《成都城池帖》



王羲之《十七帖》
原本：東晉時代
紙本墨拓、觀峰館藏

《朱处仁帖》

是下今年改七十
常佳山夫慶
頤養吾年
人理得尔以爲
厚幸但恐前
亦年可順指之
如也堪後勤加
如也堪後勤加

不有驗者乃是要藥
朱處仁今所
書信遂不取答
其書可令必達
其書可令必達

王羲之《十七帖》
原本：東晉時代
紙本墨拓、觀峰館藏

成都城池

朱者城池

法在者必法為形曾其司蜀中事云
朱者城池以在樓觀以是素時司馬
錯以情令人意相悅然為亦不信其亦朱
受仁今仁在法曰其出法道亦不若今因
之六若其出可令必達 壬戌春仲書朱
楷翁替軍法教 益田宋伯魯

宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

中華民國11年 (1922) 紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

成都城池

朱

者

城

池

法在者必法為形曾見蜀中事云
朱者城池以在樓觀以是素時司馬
錯以情令人意相快然為亦不信也亦朱
愛仁今仁在法曰其出法遂亦不若今因
之六若其出可令必達 壬戌春仲書朱
楷葉替軍法教 益田宋伯魯



宋伯魯（1854~1932）

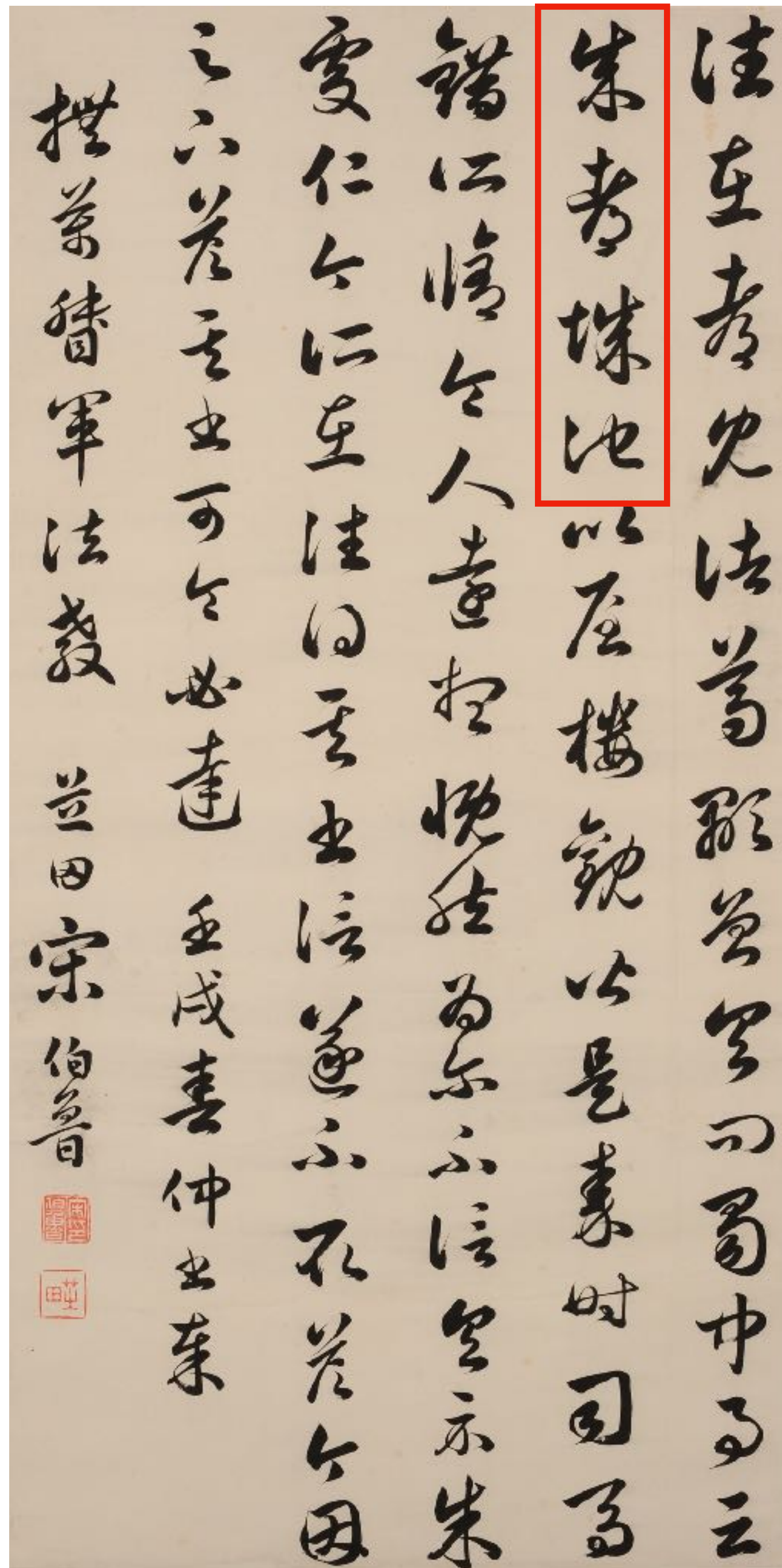
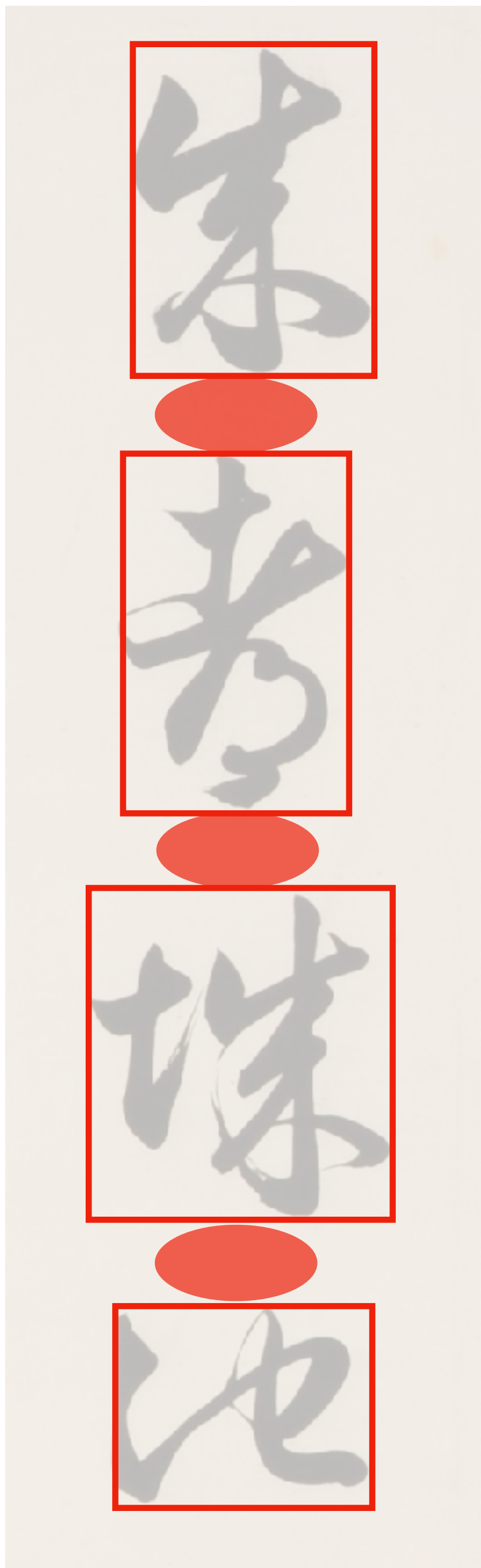
《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

成都城池

字間をほぼ
同じ広さに



宋伯魯 (1854~1932)

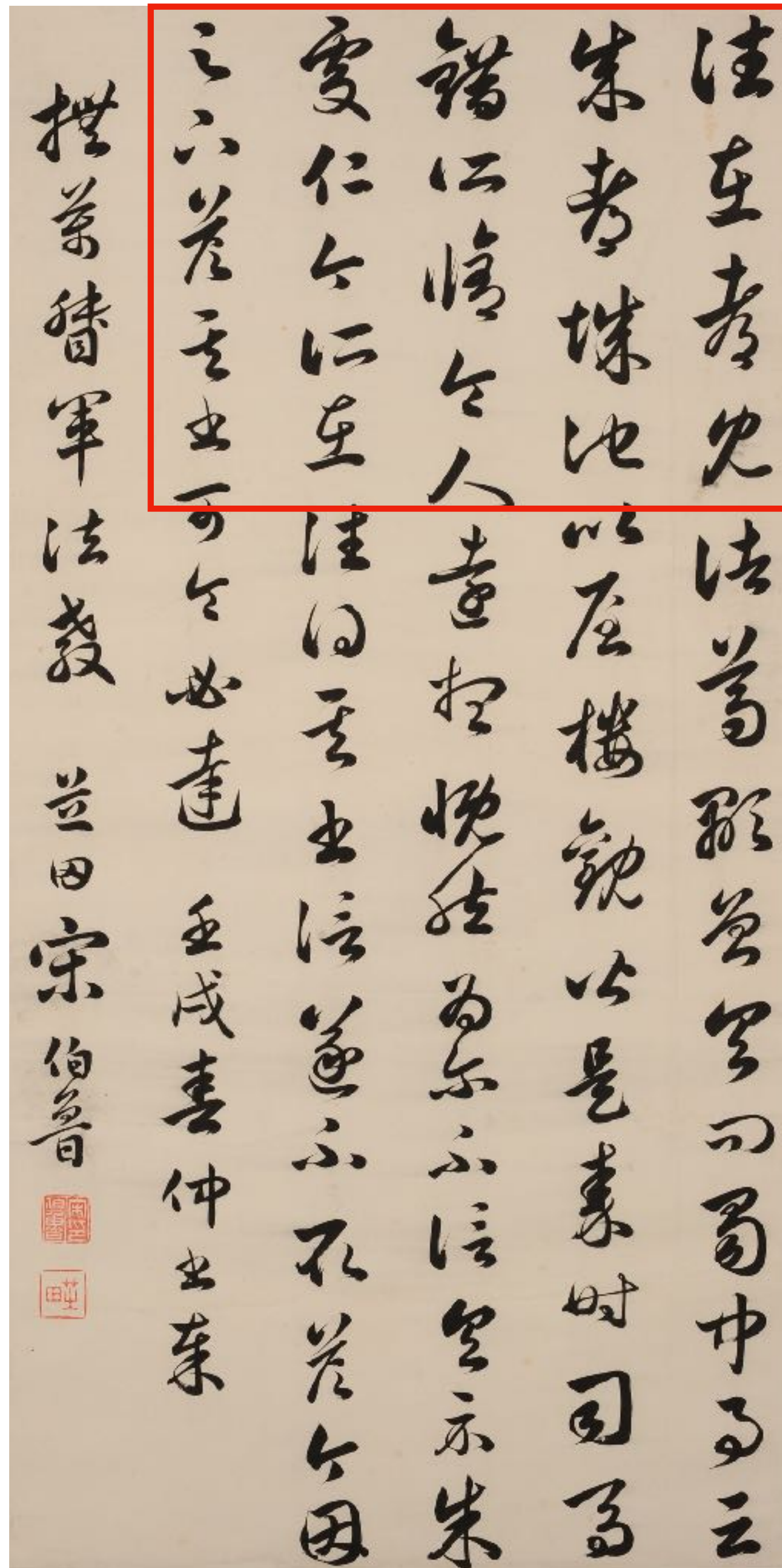
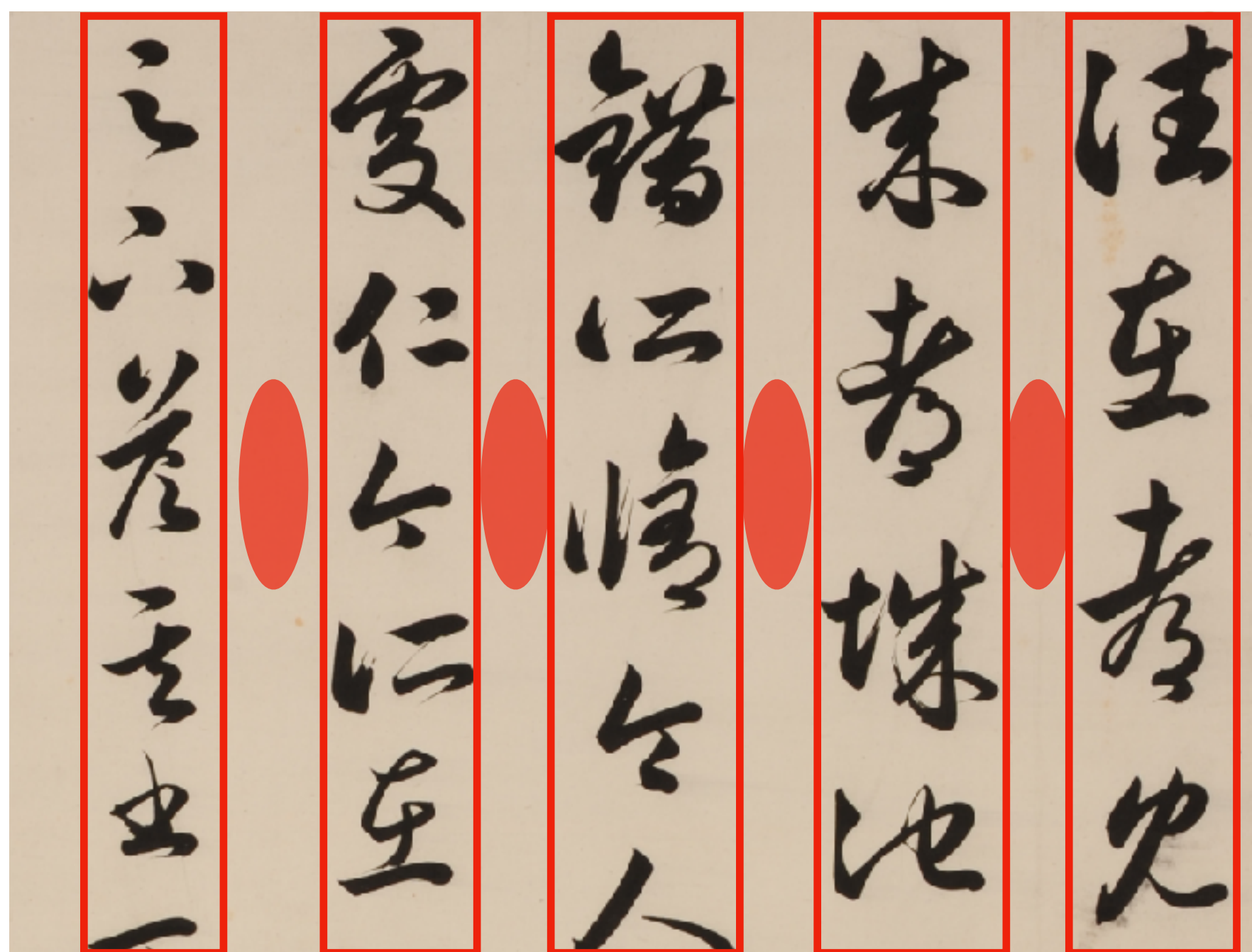
《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》
中華民國11年 (1922) 紙本墨書、
82.5×41.0cm、觀峰館蔵

法在者欠
朱者城池
錯以情令人
愛仁今仁在
之六者五也

法在者欠 法為形曾今司蜀中事云
朱者城池 以在樓觀以是素時司蜀
錯以情令人 意相悅然為尔不信今亦朱
愛仁今仁在 注曰五也注道亦不若今因
之六者五也 可令必達 壬戌春仲書於
楷葉替軍法教 並田宋伯魯



宋伯魯（1854~1932）
《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》
中華民國11年（1922）紙本墨書、
82.5×41.0cm、觀峰館藏



行間を狭くしない
 = 文字が整然と並ぶ
 紙面構成

宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》
 中華民國11年 (1922) 紙本墨書、
 82.5×41.0cm、觀峰館藏

成都城池

朱者城池

法在者必法為形曾其司蜀中事云
朱者城池以在樓觀以是素時司馬
錯以情令人意相快然為亦不信其亦朱
受仁今仁在法曰其出法遂亦不若今因
之六若其出可令必達 壬戌春仲書朱
楷翁替軍法教 益田宋伯魯

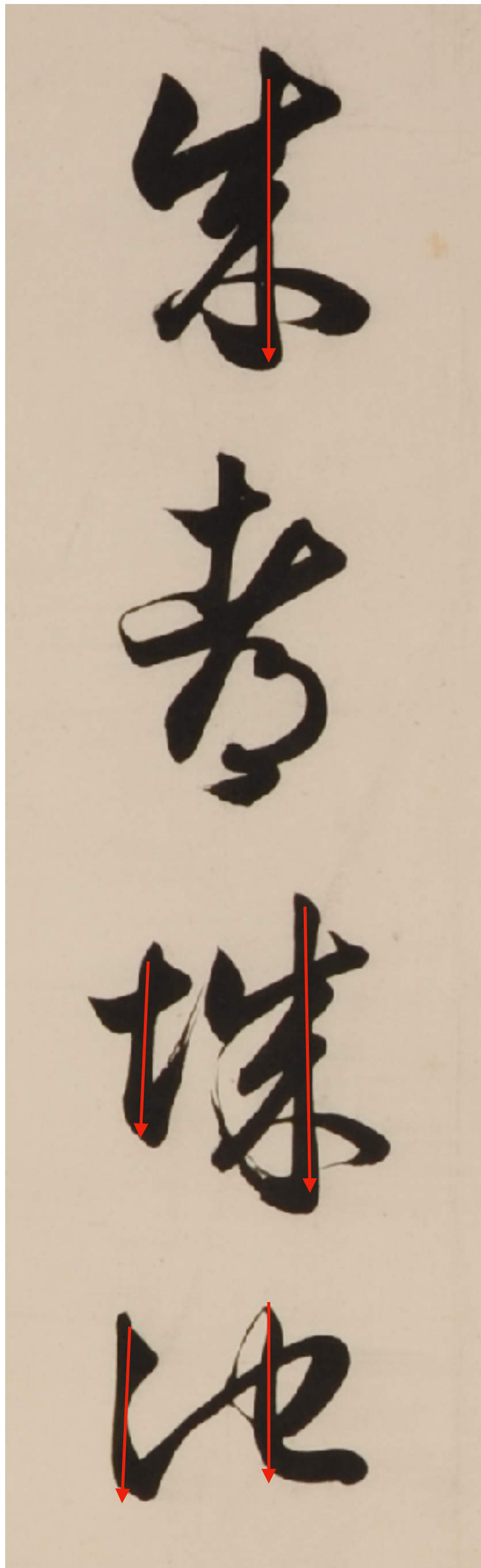
宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

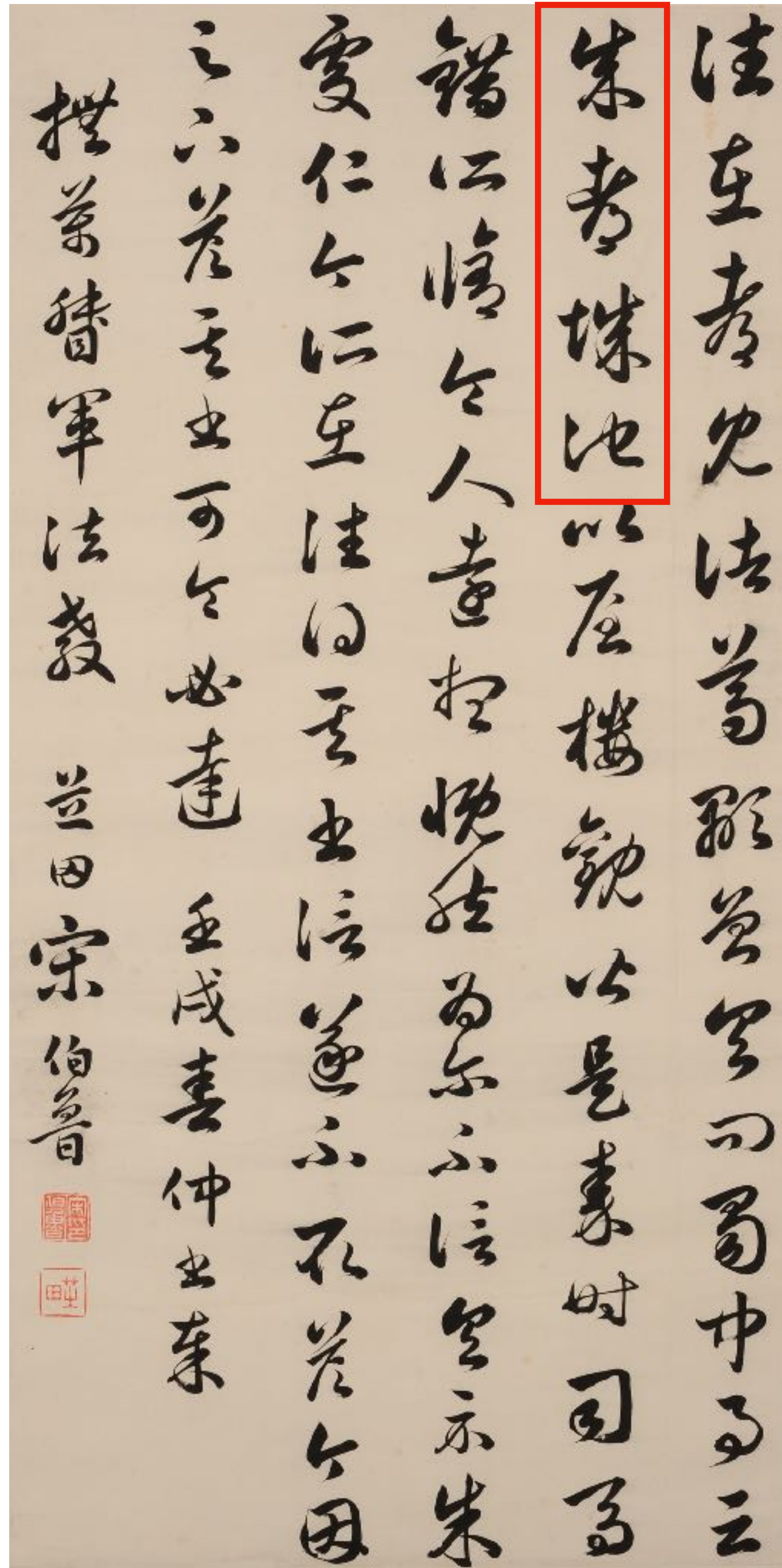
中華民國11年 (1922) 紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

成都城池



縦画をほぼ
垂直に
一字が直立
する



宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》
中華民國11年 (1922) 紙本墨書、
82.5×41.0cm、觀峰館藏

成都城池

朱
者
城
池

城

池

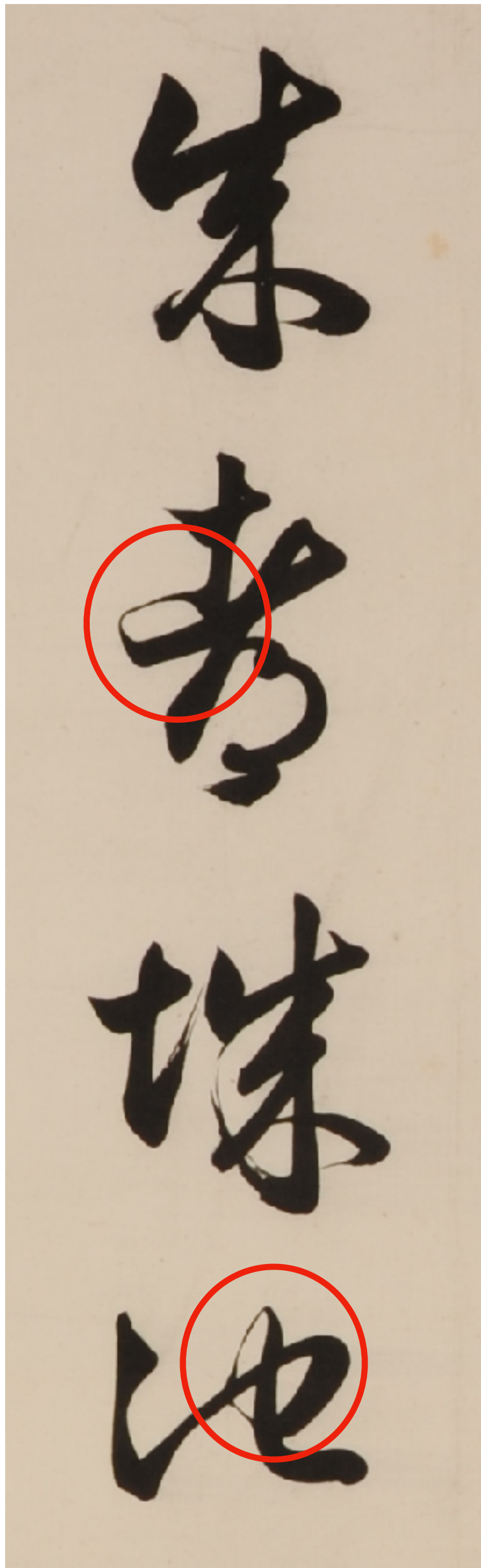
偏と旁の
大きさに
大小の差
をつける
= 安定感
を生じる

法在者必法為形曾其司蜀中云
朱者城池以在樓觀以是素時司馬
錯以情令人意相快然為尔不信其亦朱
愛仁今に在法日其出信遂不不若今因
之六若其出可令必達 壬戌春仲書朱
楷系替軍法教 並田宗伯魯

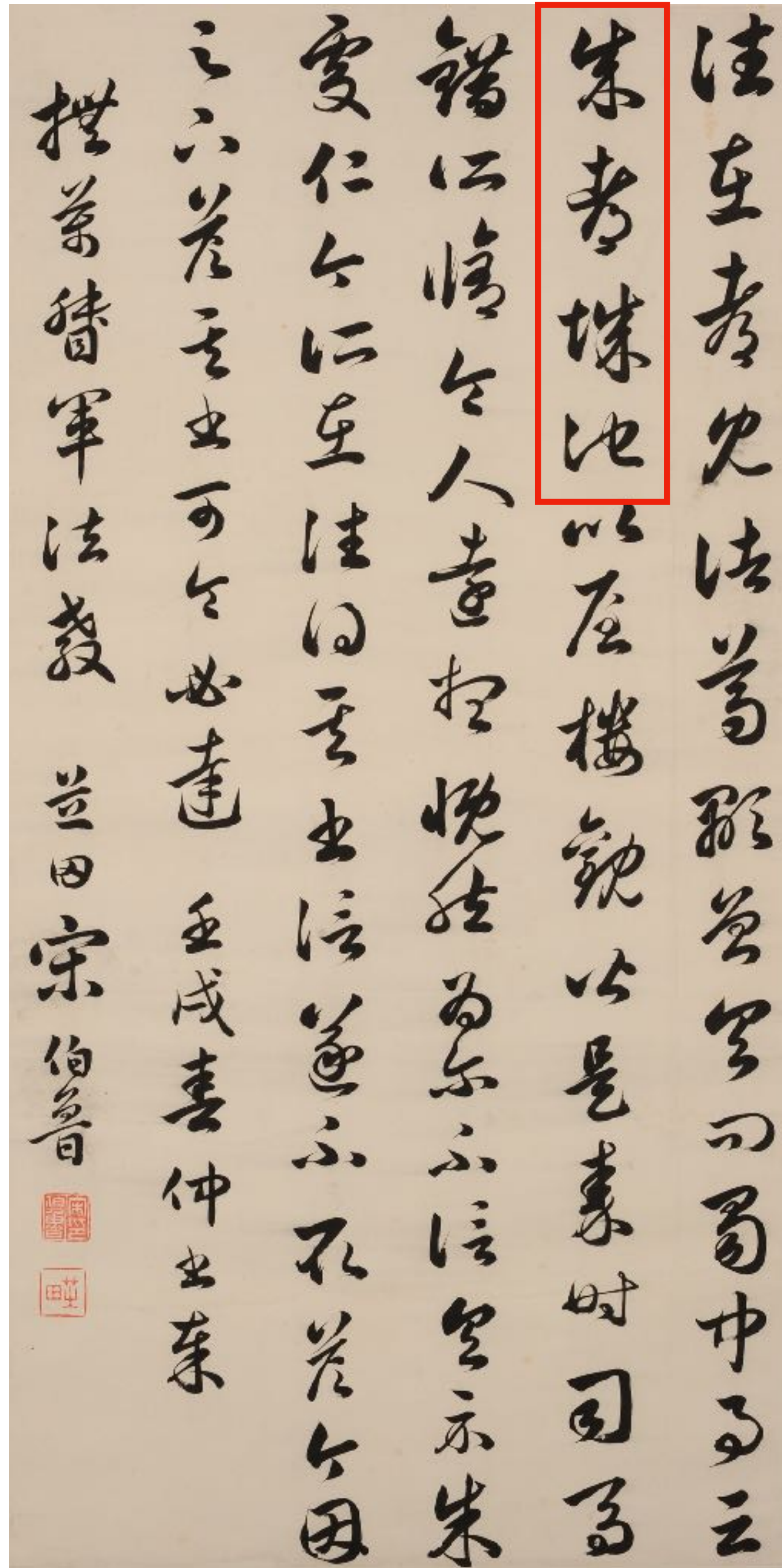
宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》
中華民國11年 (1922) 紙本墨書、
82.5×41.0cm、觀峰館蔵

成都城池



筆先だけで書かれている細い線



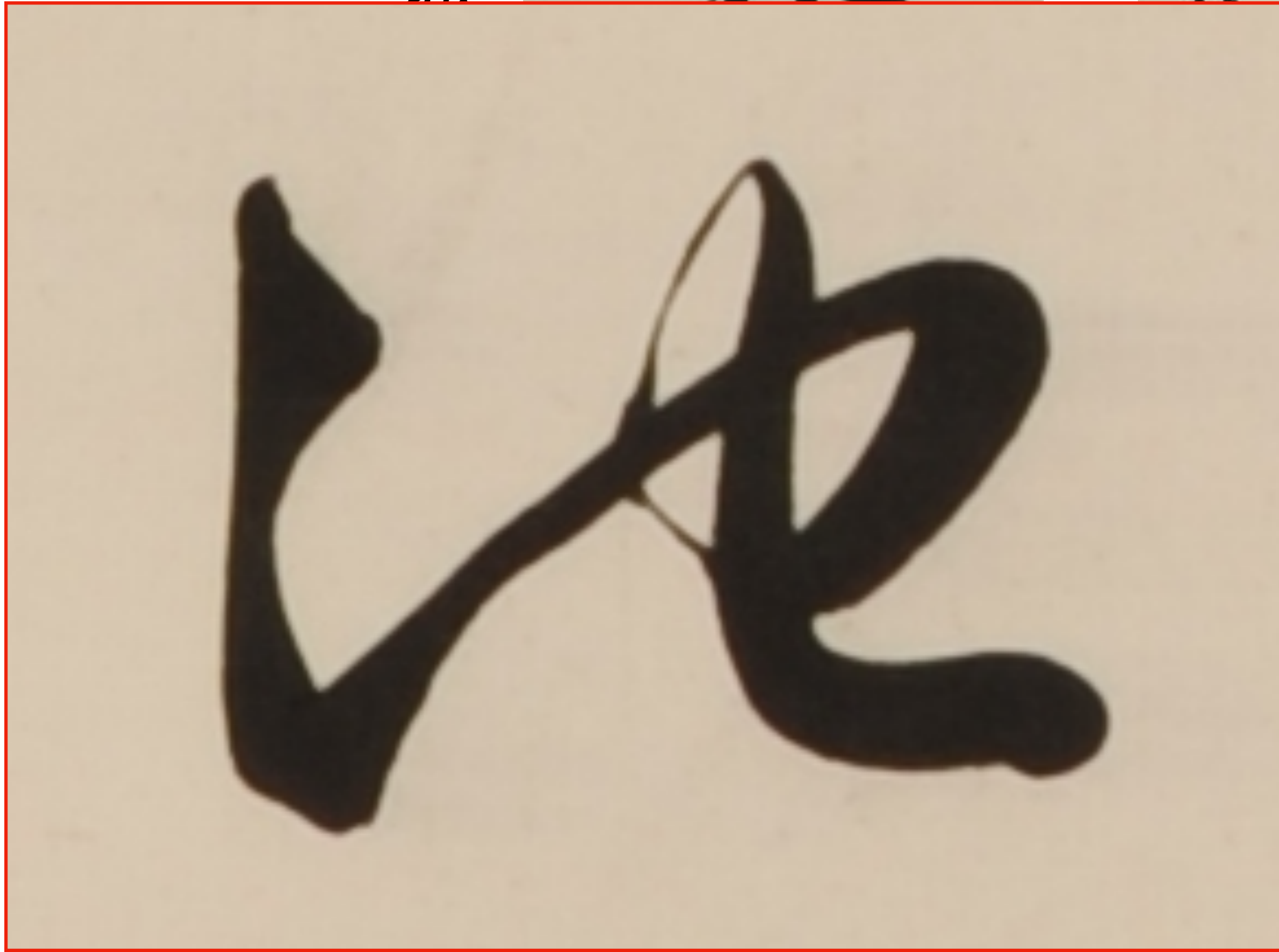
宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》
中華民國11年 (1922) 紙本墨書、
82.5×41.0cm、觀峰館蔵

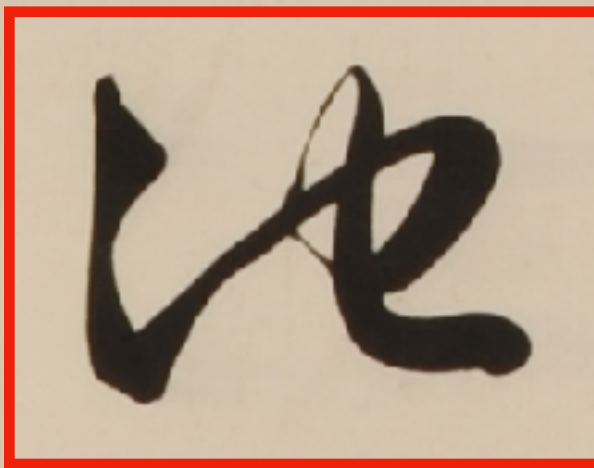
成都城

宋

楷



自然な肥瘦
がある線



法在者必法高駉曾公蜀中云
宋者城池以在樓觀以是素時司馬
錯以情令人意相快然為尔不信也宋
愛仁今仁在法曰其出法道不不若今因
之六若其出可令必達 壬戌春仲書宋

宋伯魯 (1854~1932)

《草書臨王羲之成都城池·朱処仁帖軸》

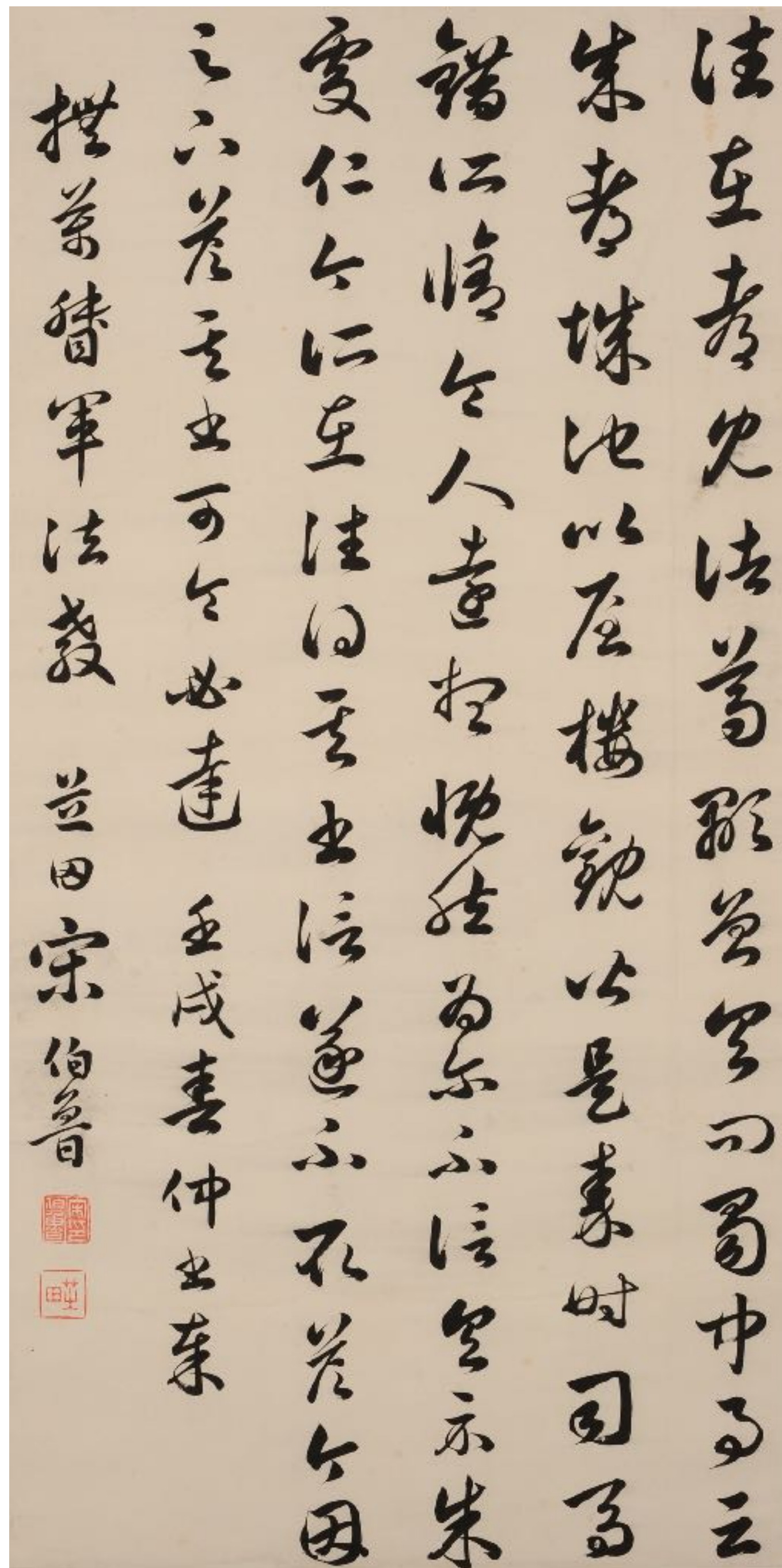
中華民國11年 (1922) 紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

字間をほぼ一定にとり
行間を狭くしない
= 文字が整然と並ぶ
紙面構成

安定感のある字形

自然な肥瘦がある線



宋伯魯（1854～1932）

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》

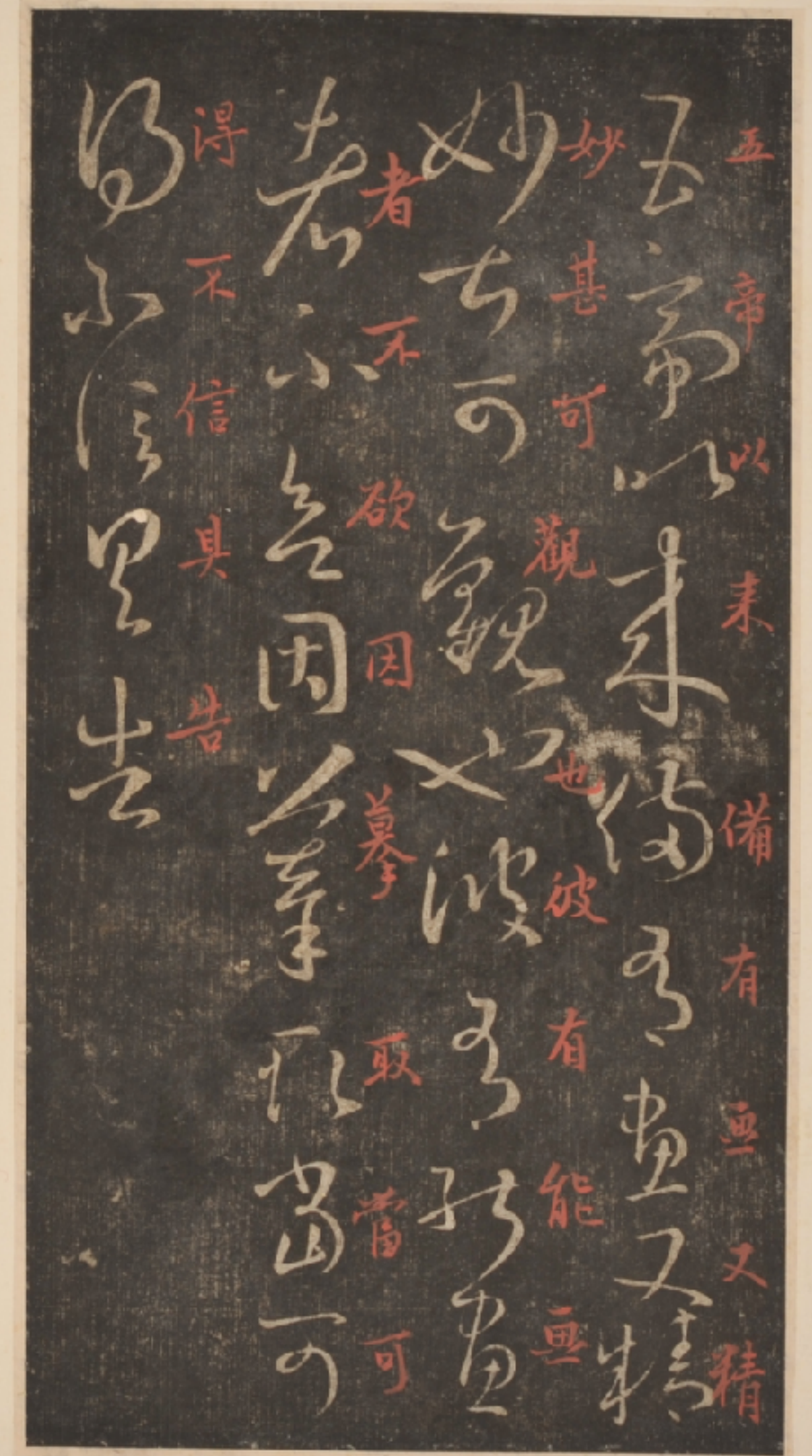
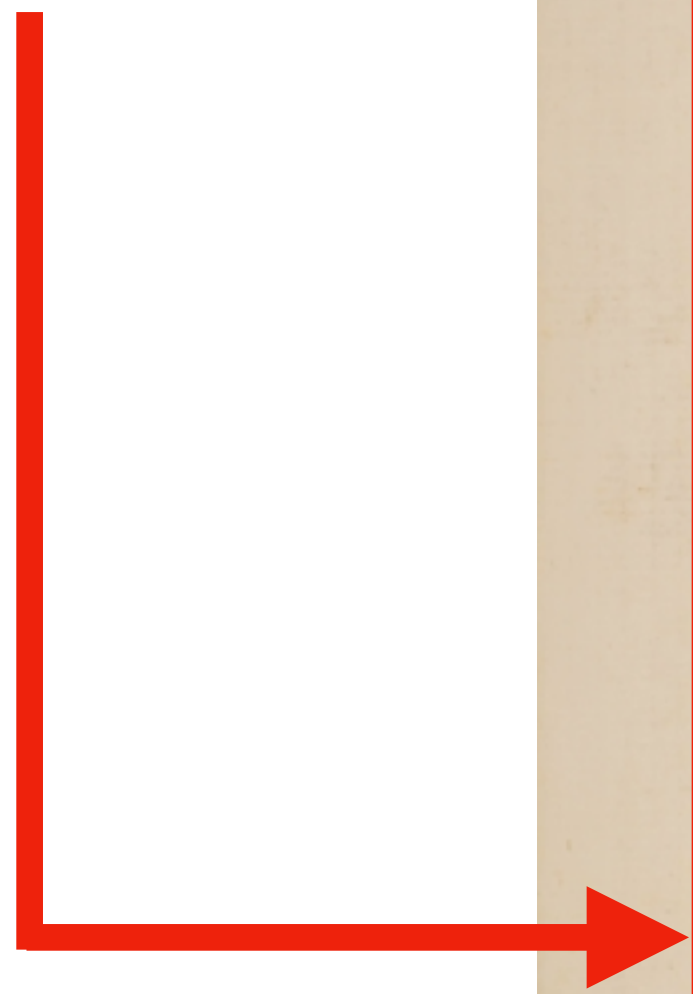
中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

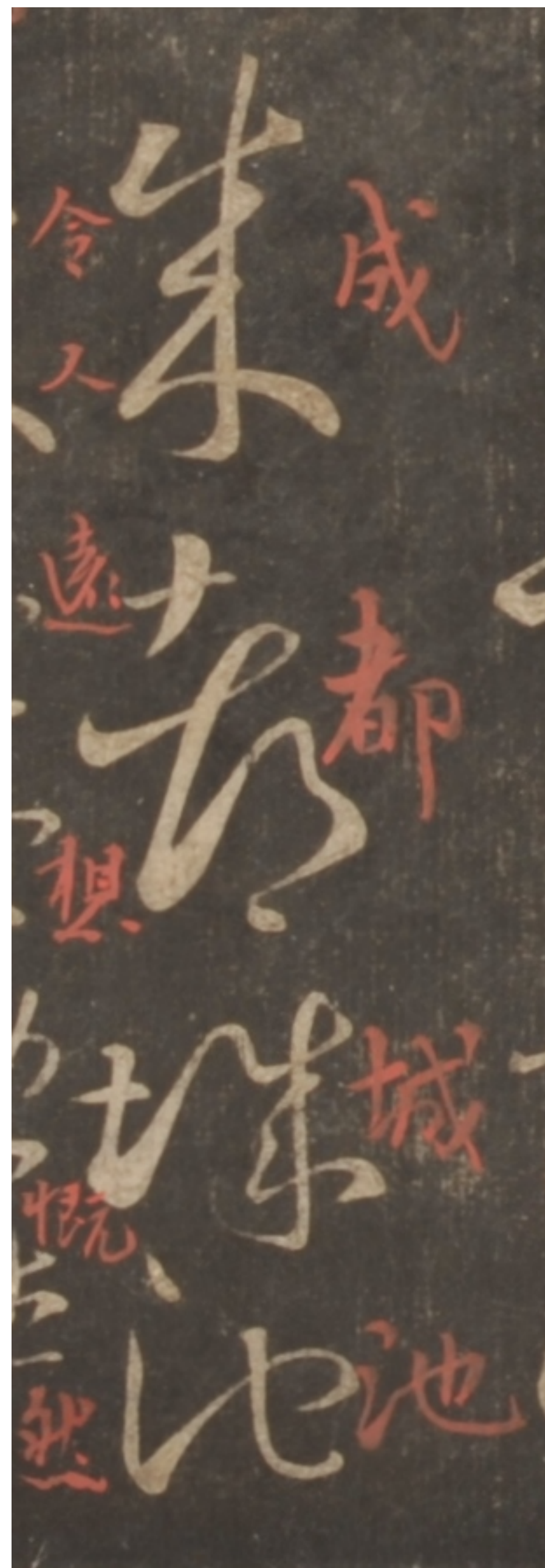
観峰館の臨書作品について②

比較分析

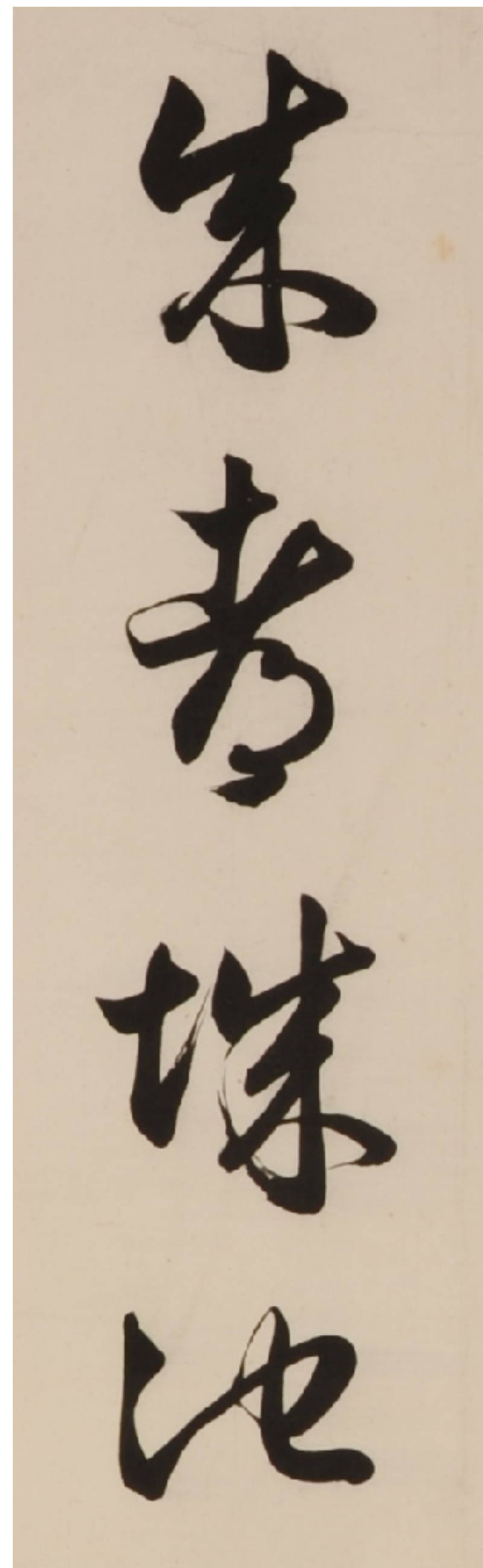
《成都城池帖》



王羲之《十七帖》
 原本：東晉時代
 紙本墨拓、觀峰館藏



王羲之《十七帖》



宋伯魯

成都城池

字間をほぼ一定にとる？

「池」の1画目は「城」下部に入り込んでいる



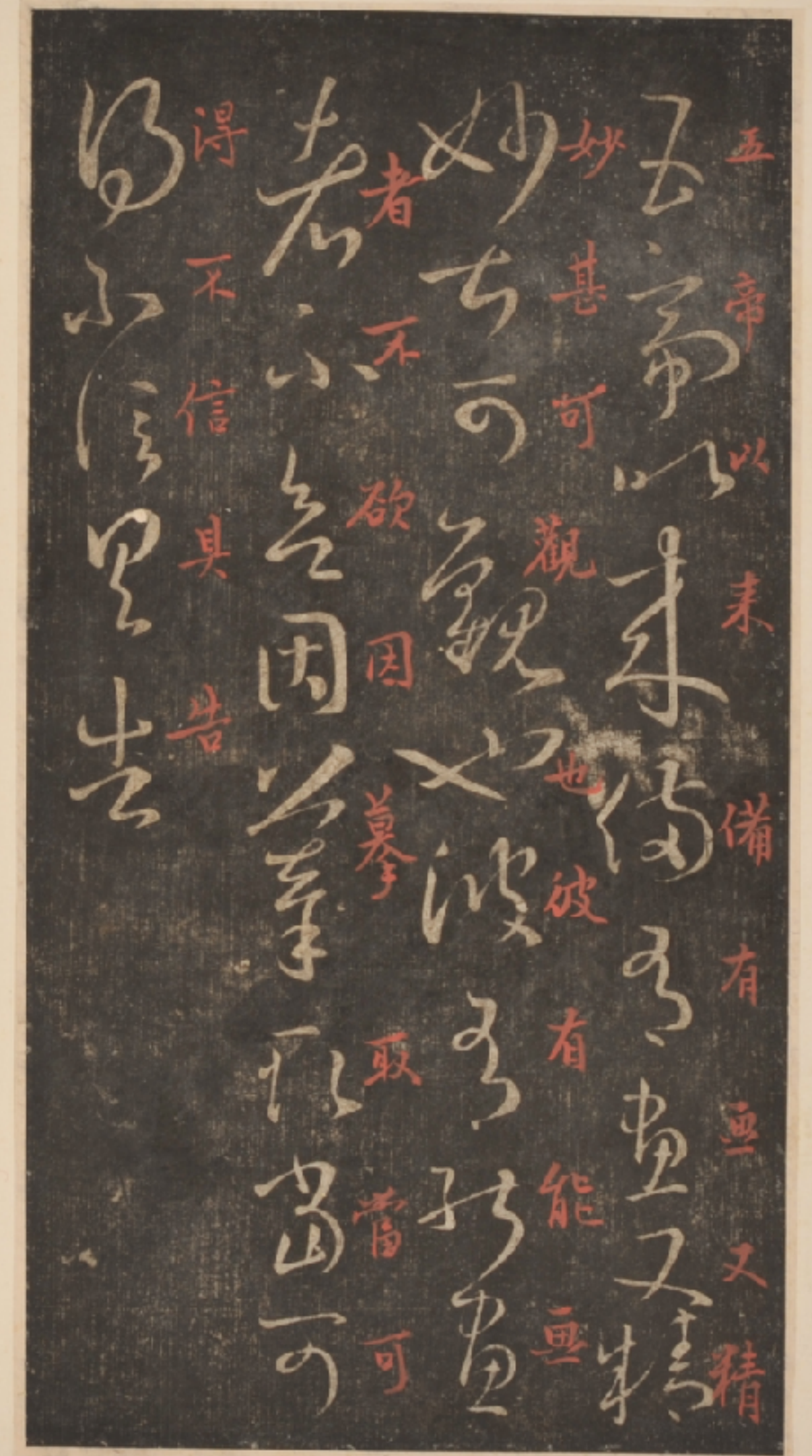
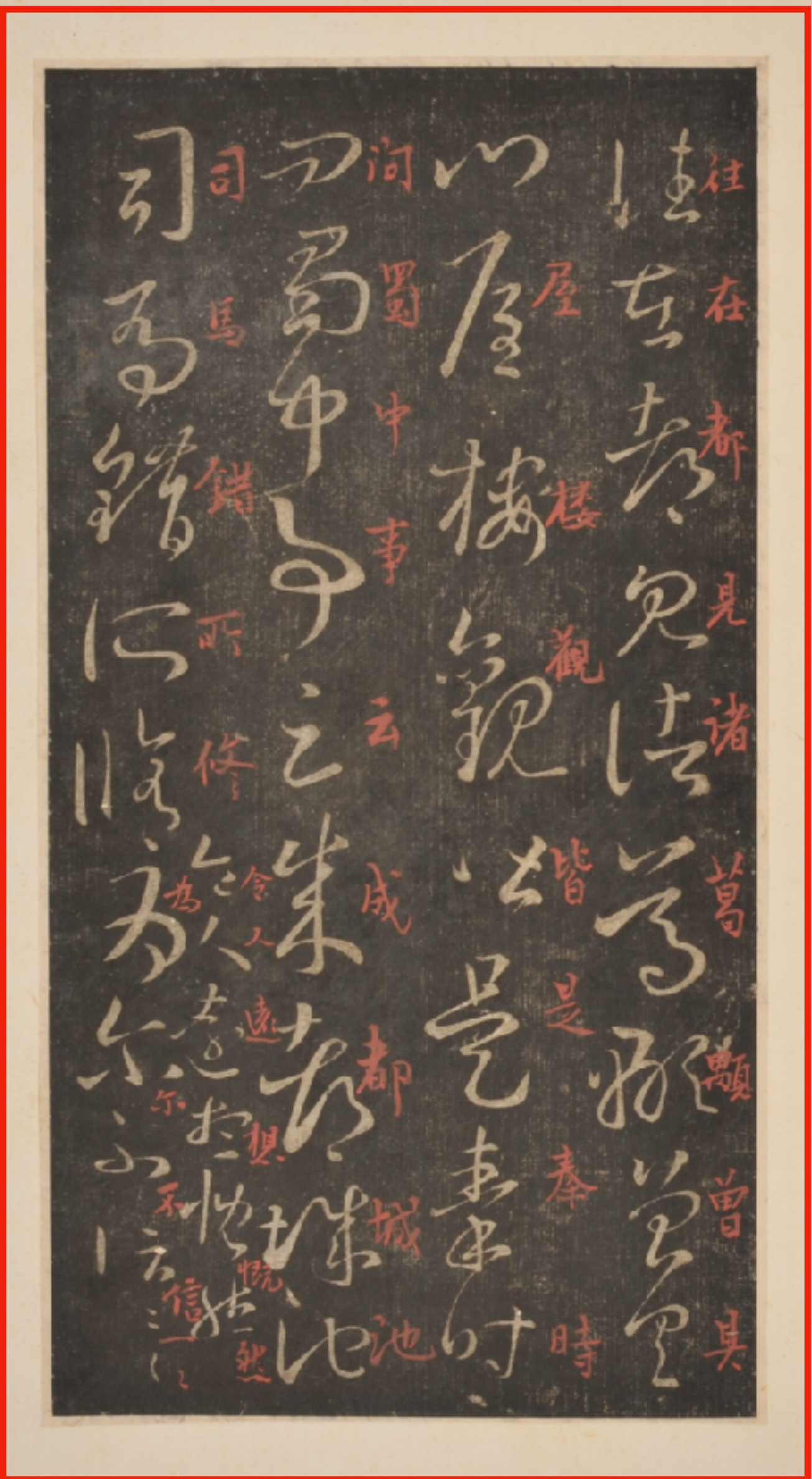
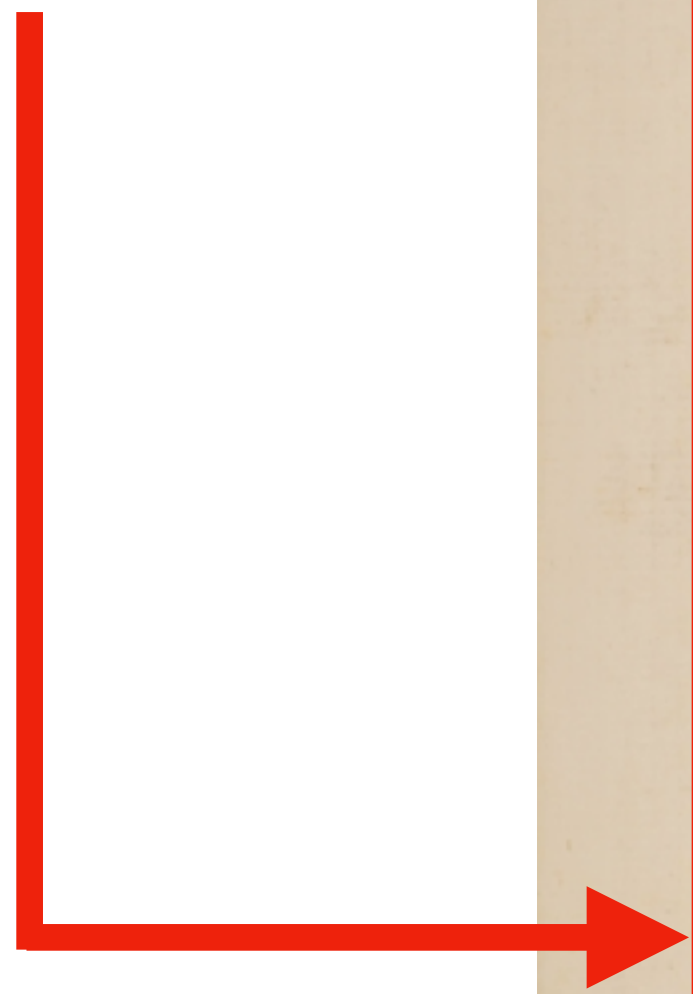
王羲之《十七帖》



宋伯魯

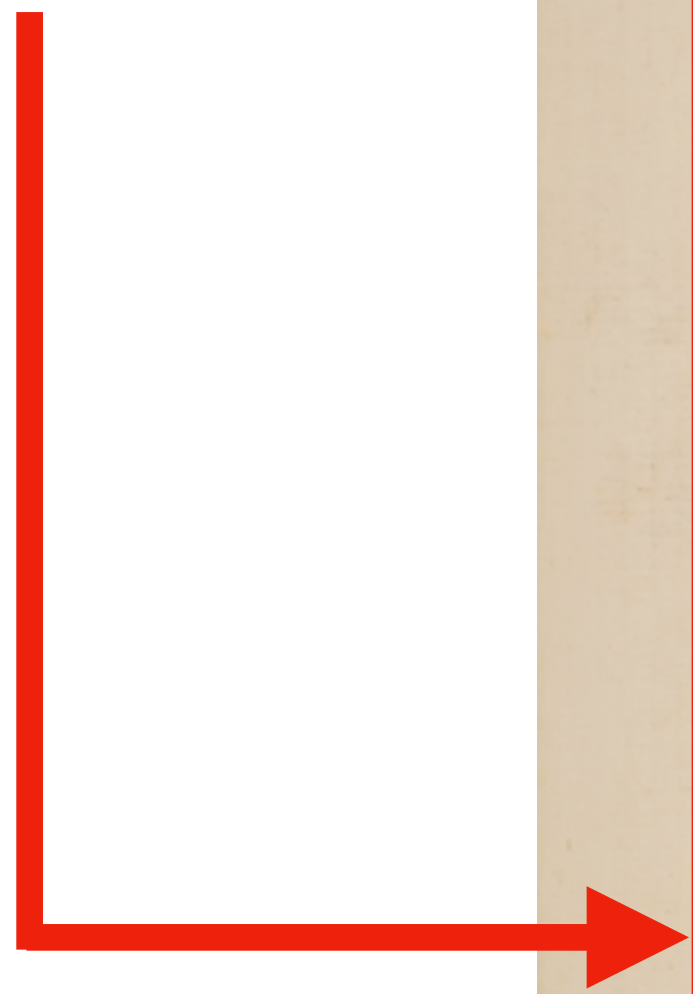
成都城池

《成都城池帖》

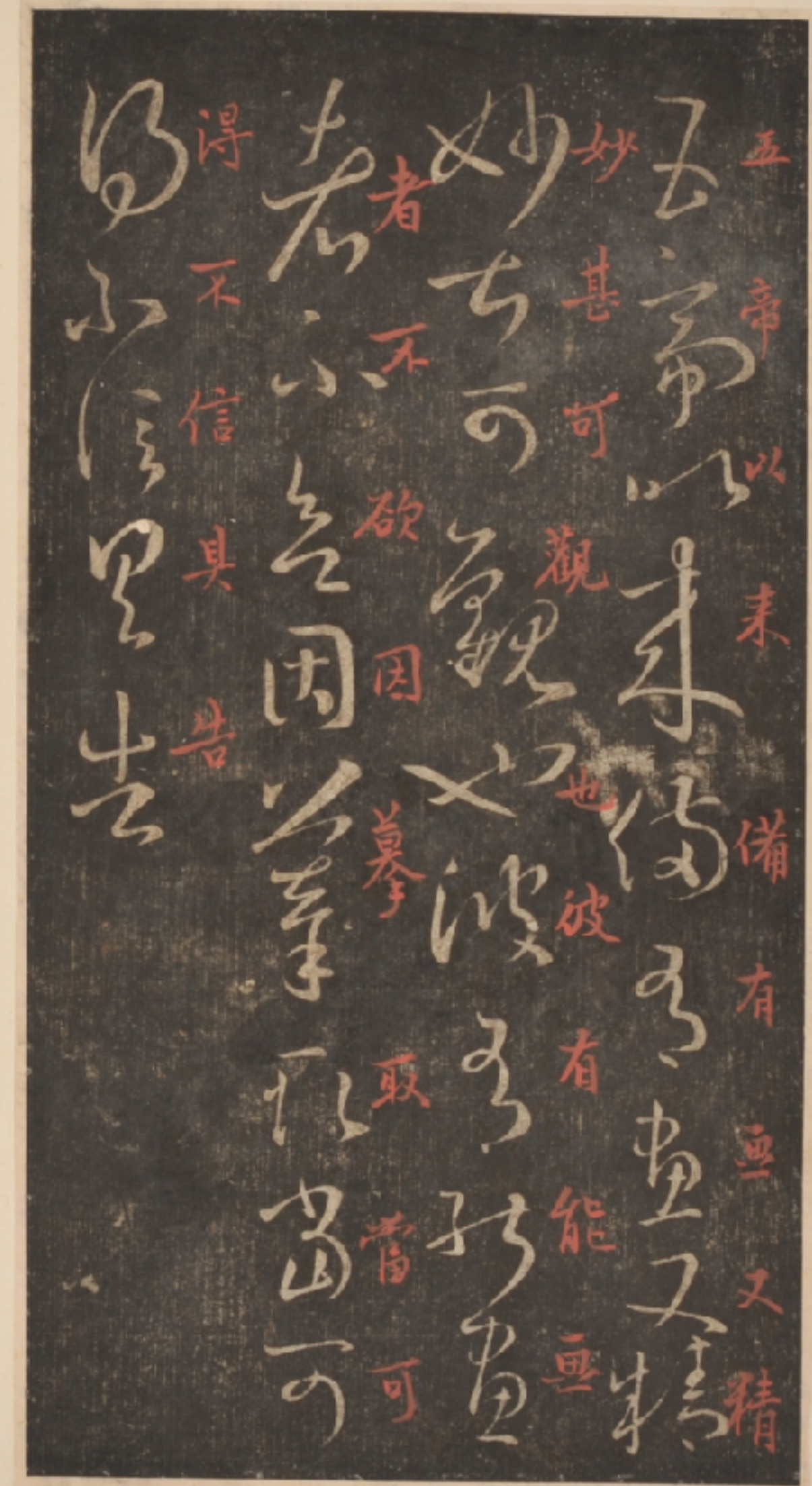
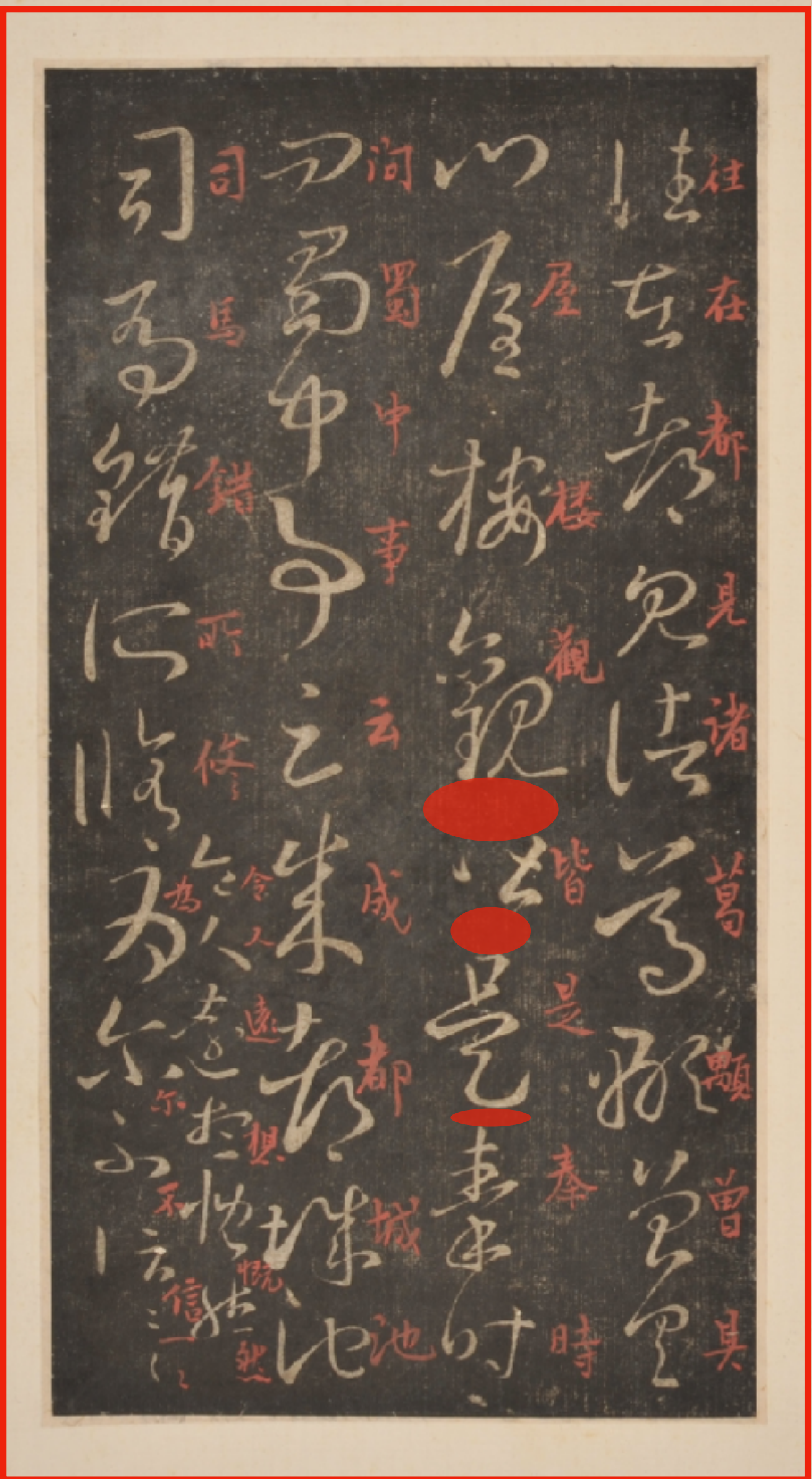


王羲之《十七帖》
原本：東晉時代
紙本墨拓、觀峰館藏

《成都城池帖》

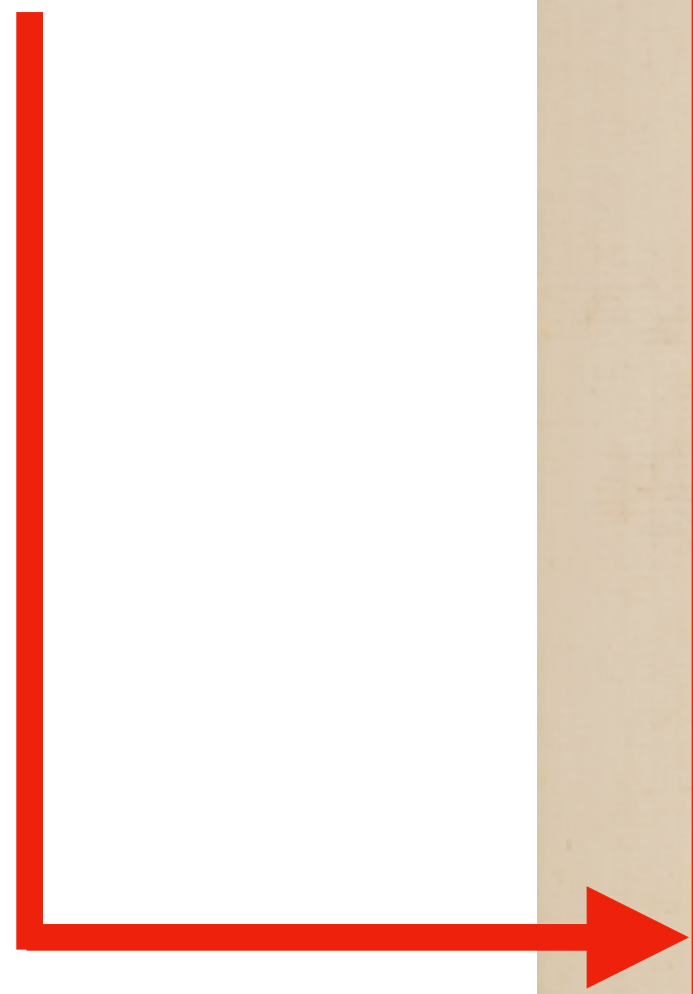


字間は
広かったり
狭かったり



王羲之《十七帖》
原本：東晋時代
紙本墨拓、觀峰館蔵

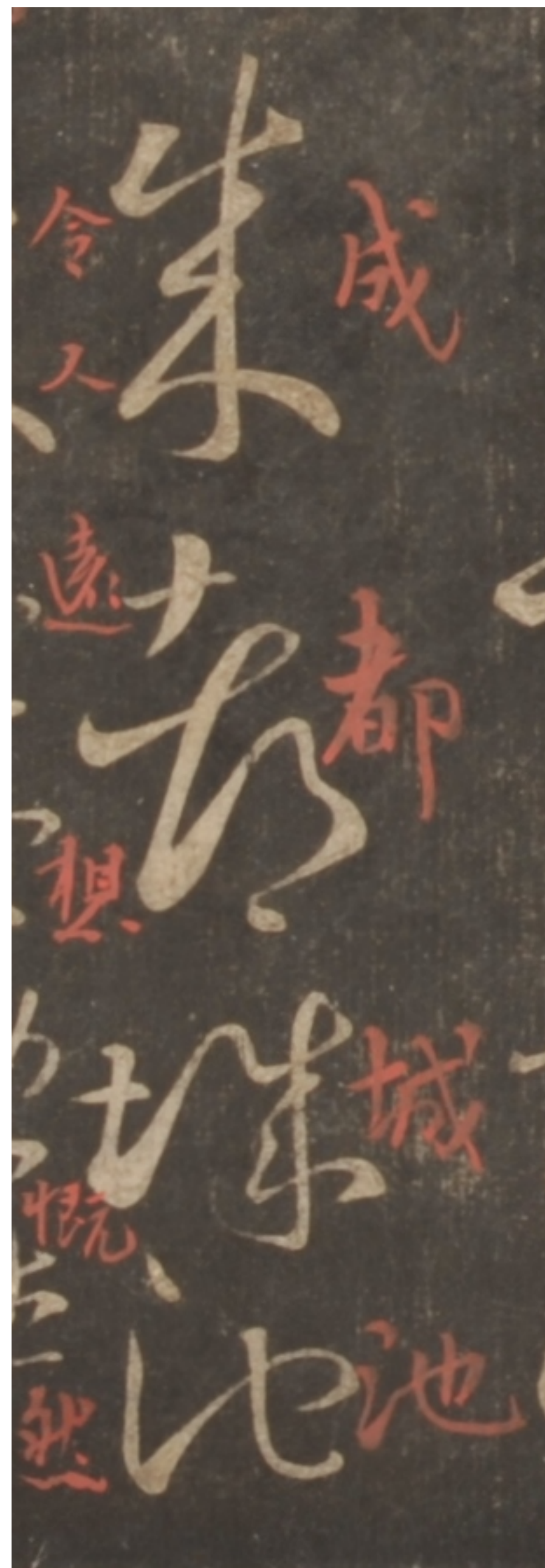
《成都城池帖》



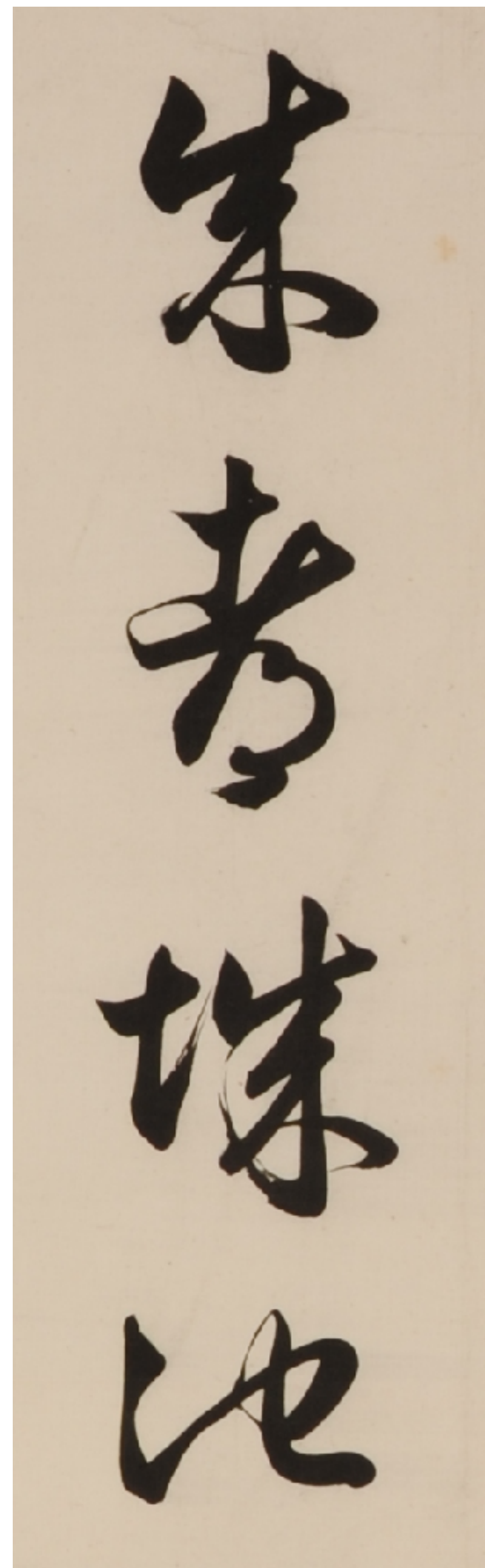
行間も
広かったり
狭かったり



王羲之《十七帖》
原本：東晋時代
紙本墨拓、觀峰館蔵



王羲之《十七帖》

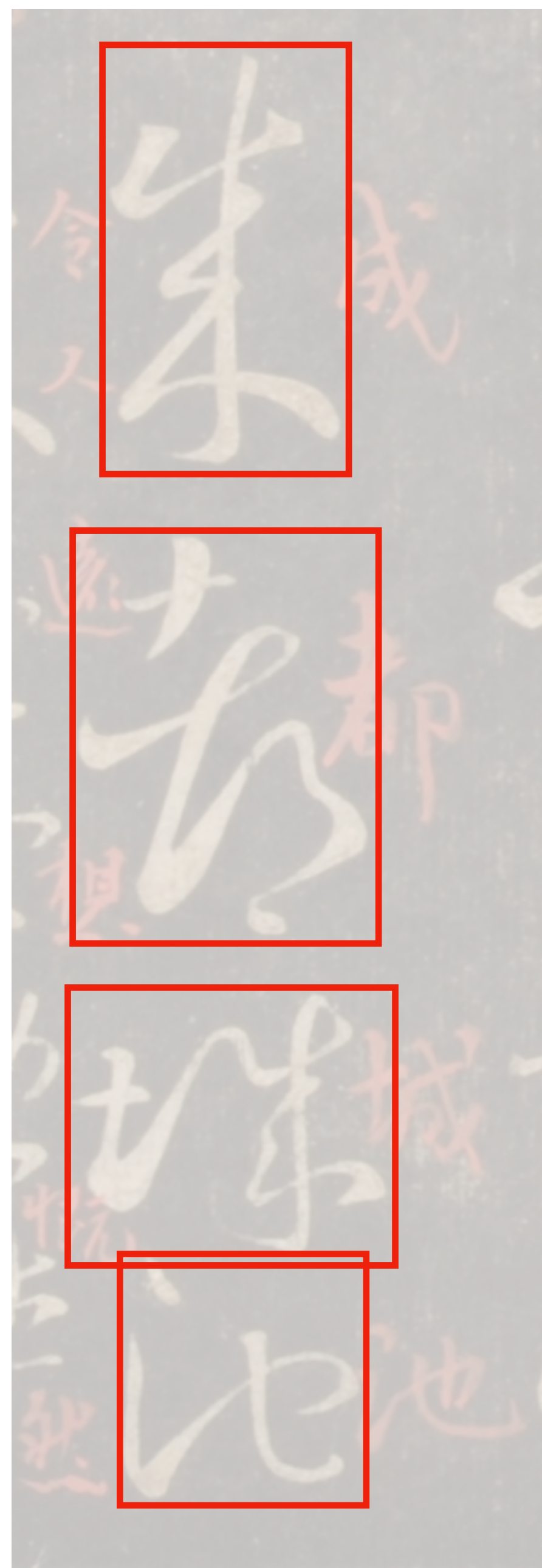


宋伯魯

成都城池

字が
大きかったり
小さかったり

縦長だったり
横長だったり



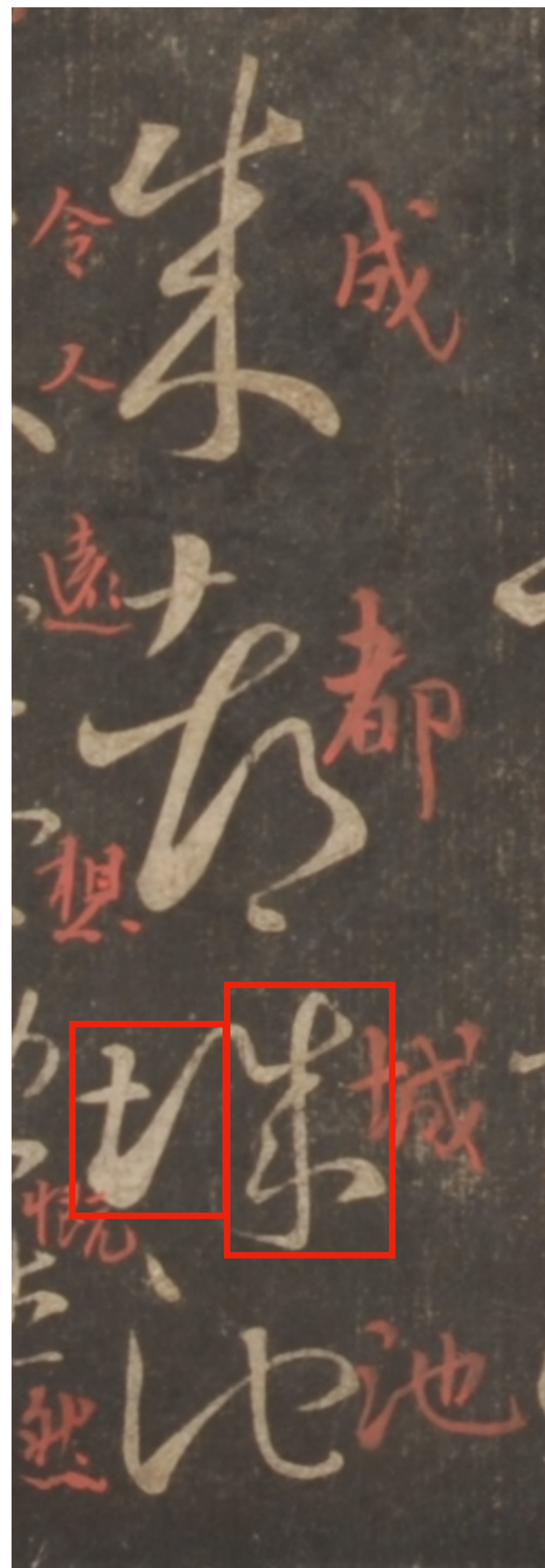
王羲之《十七帖》



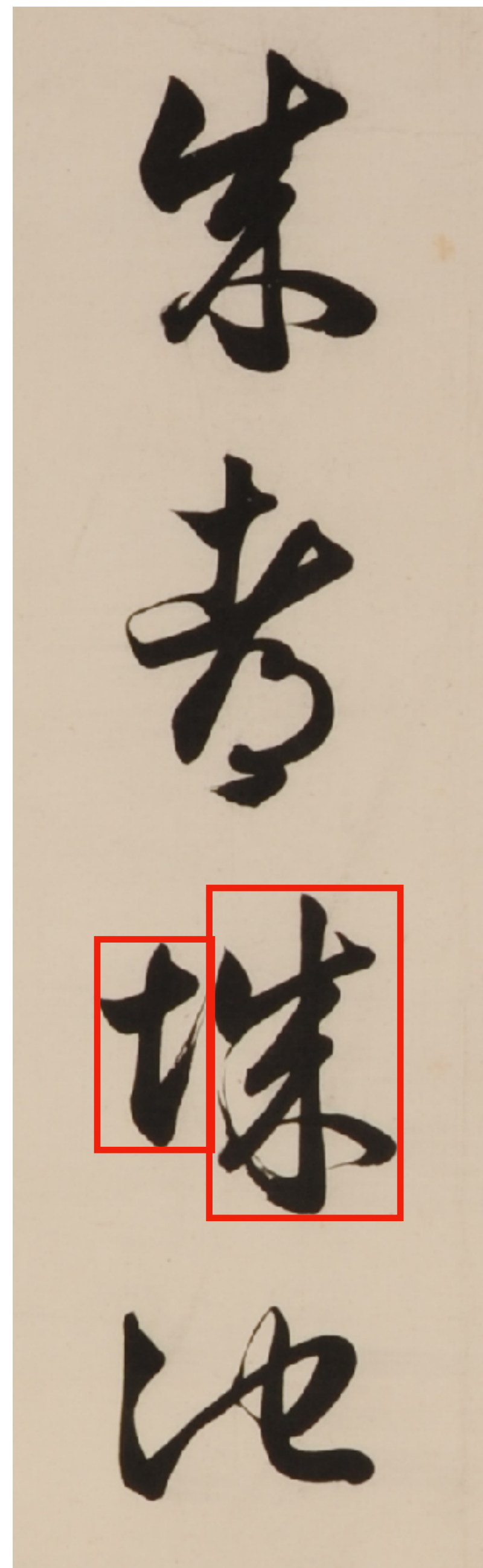
宋伯魯

成都城池

偏と旁の
大きさに
大小の差
をつける



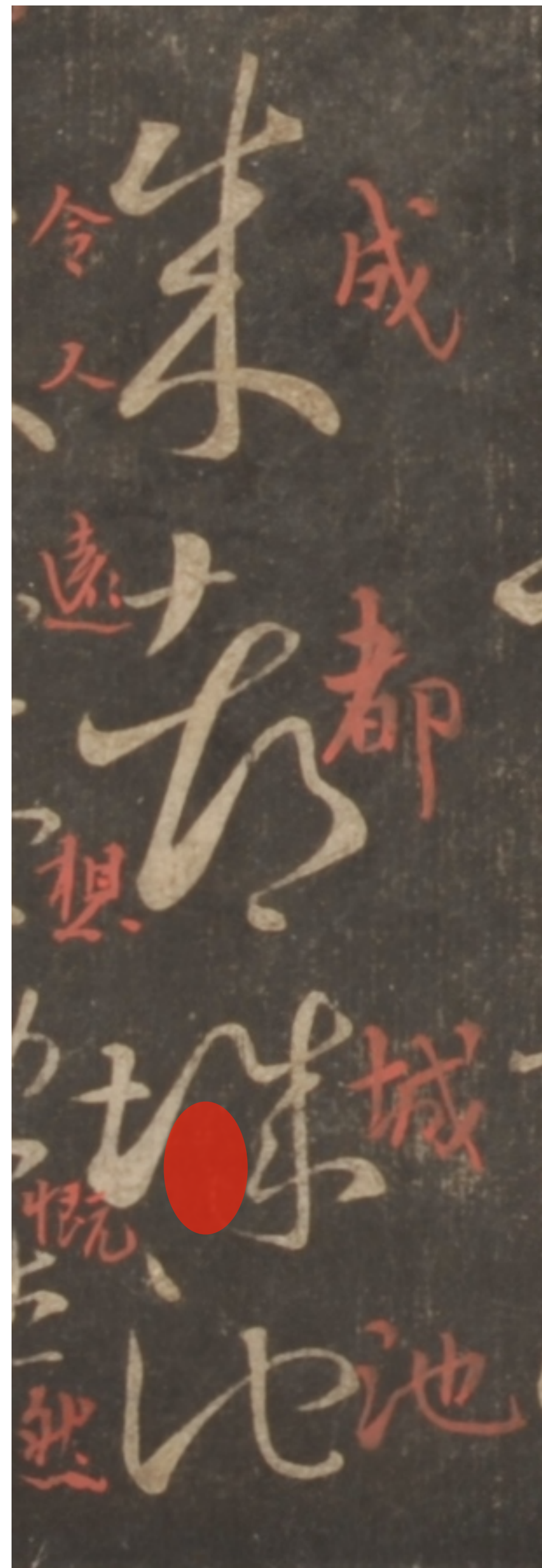
王羲之《十七帖》



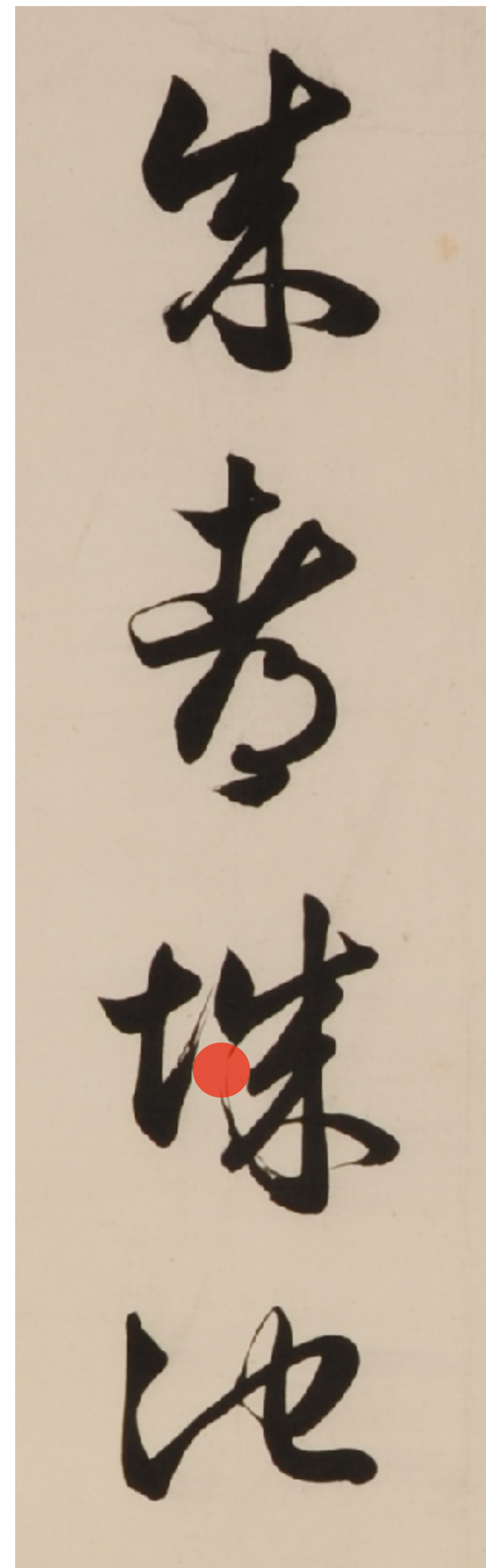
宋伯魯

成
都
城
池

偏と旁の
間に広い
余白



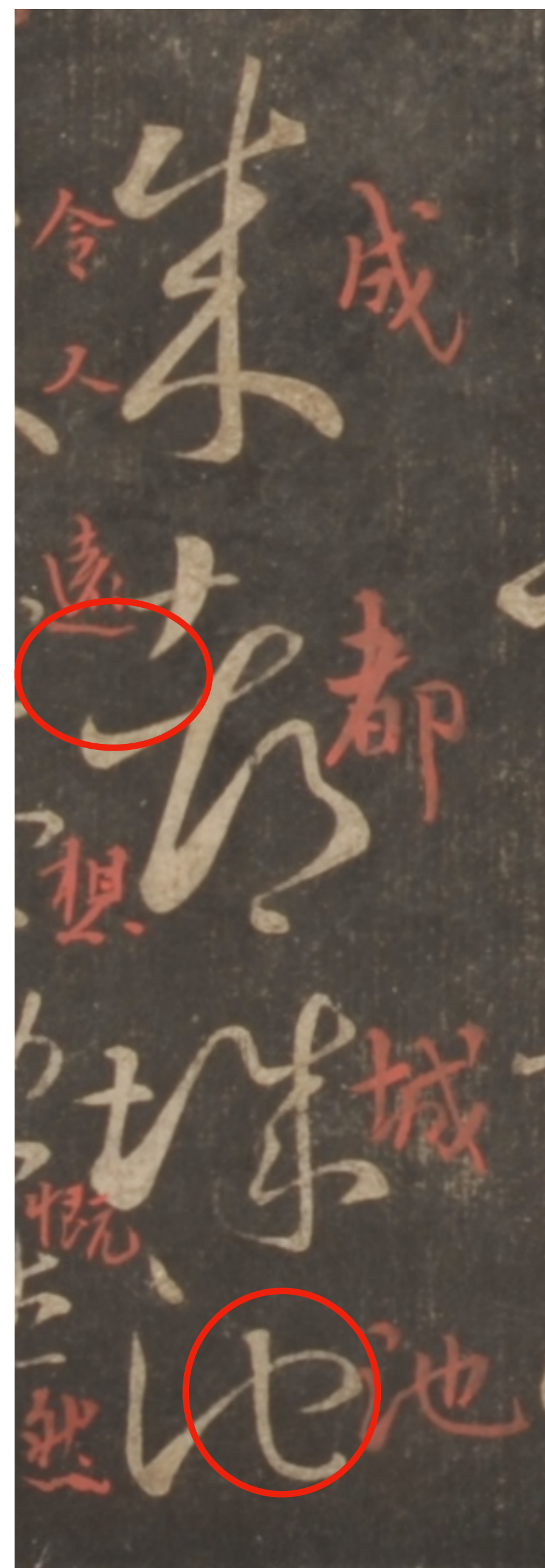
王羲之《十七帖》



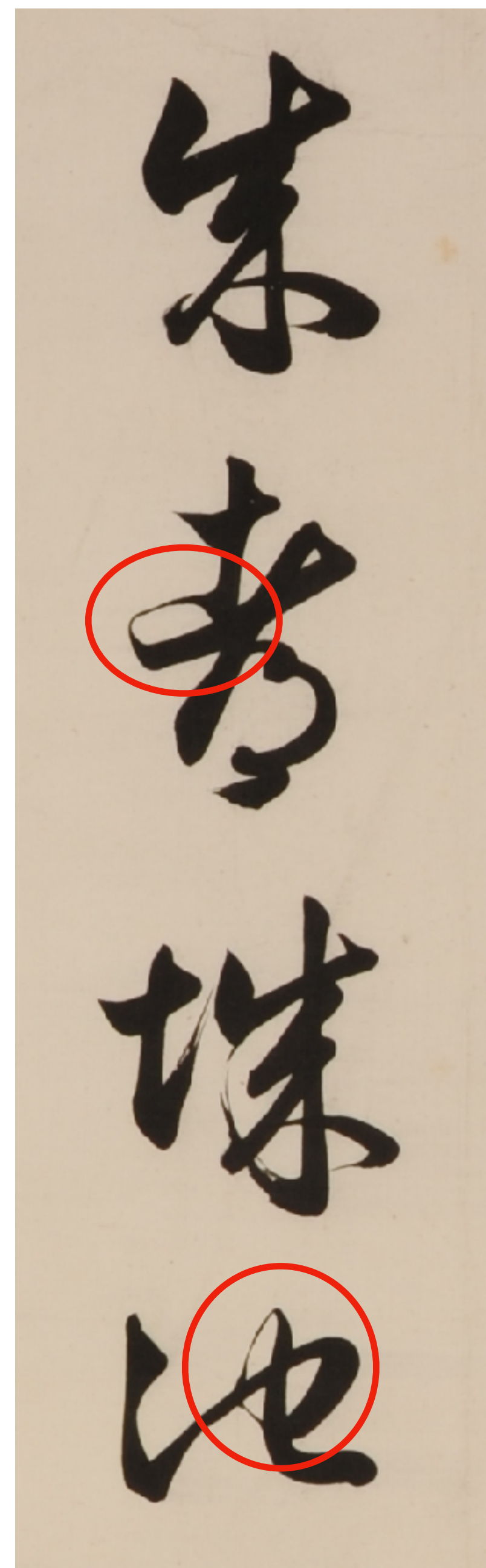
宋伯魯

成都城池

筆先だけで
書かれてい
る細い線は
ない



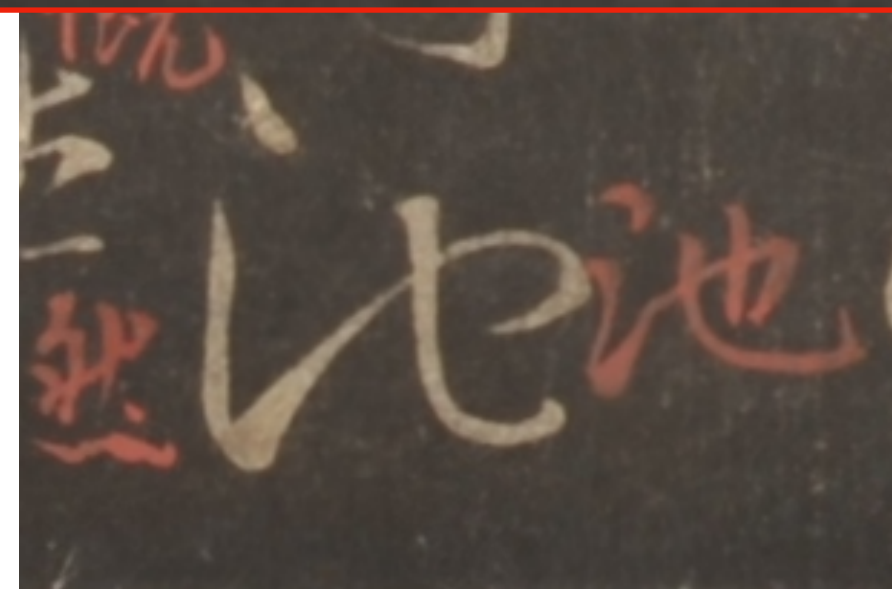
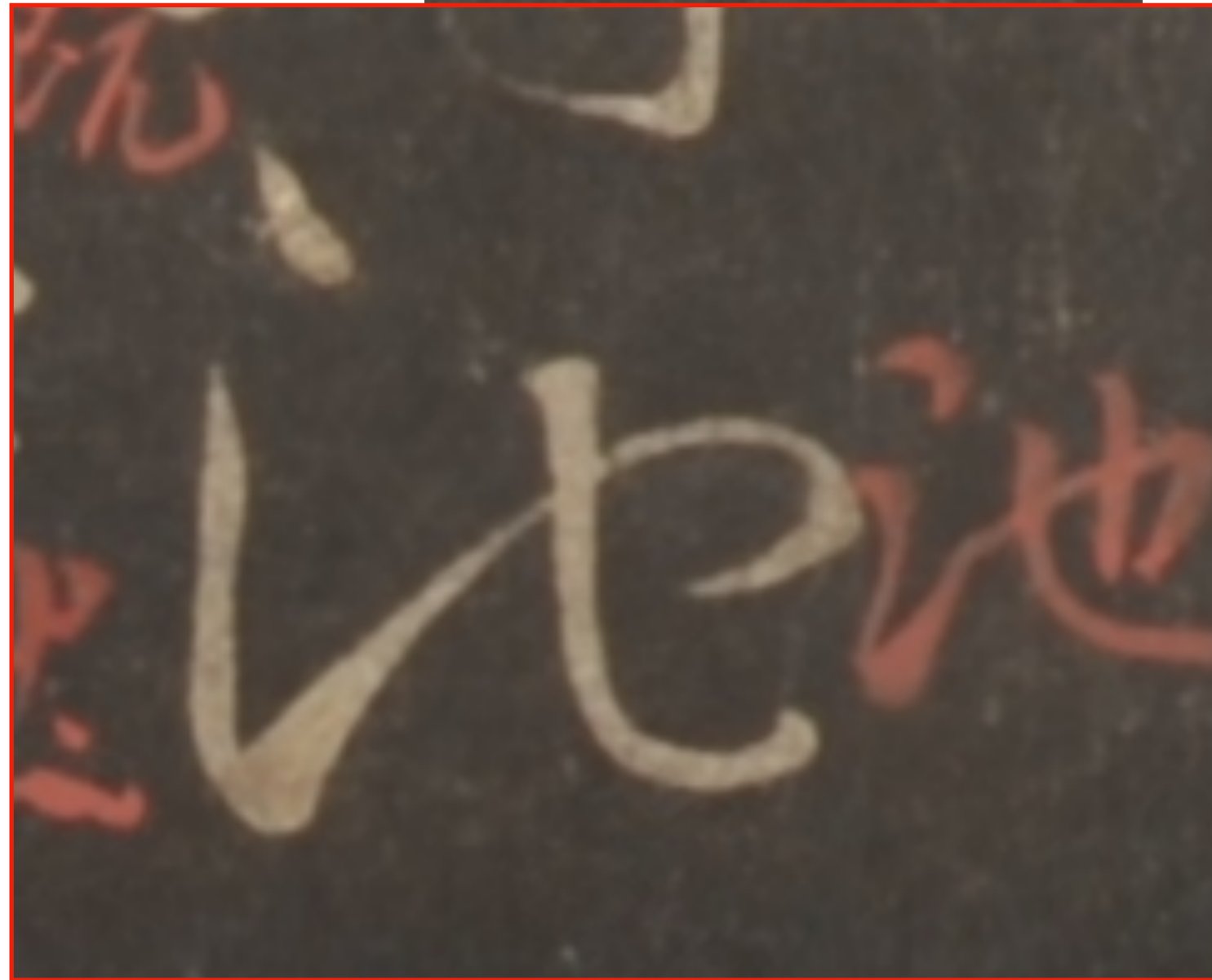
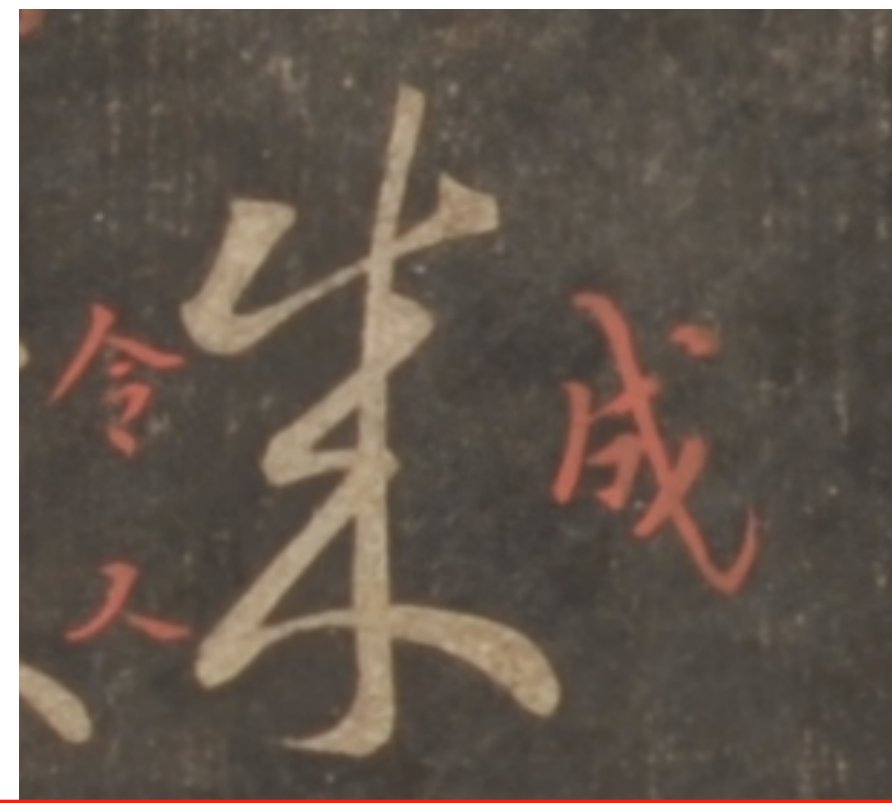
王羲之《十七帖》



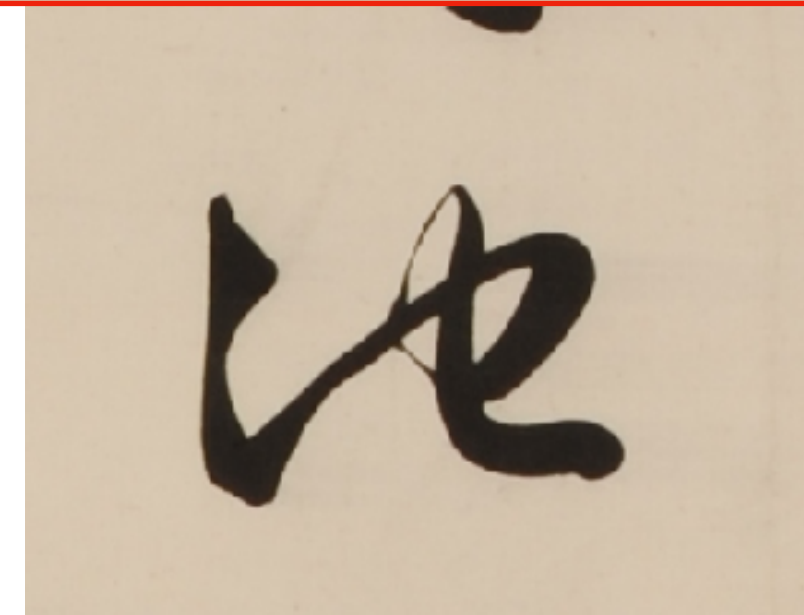
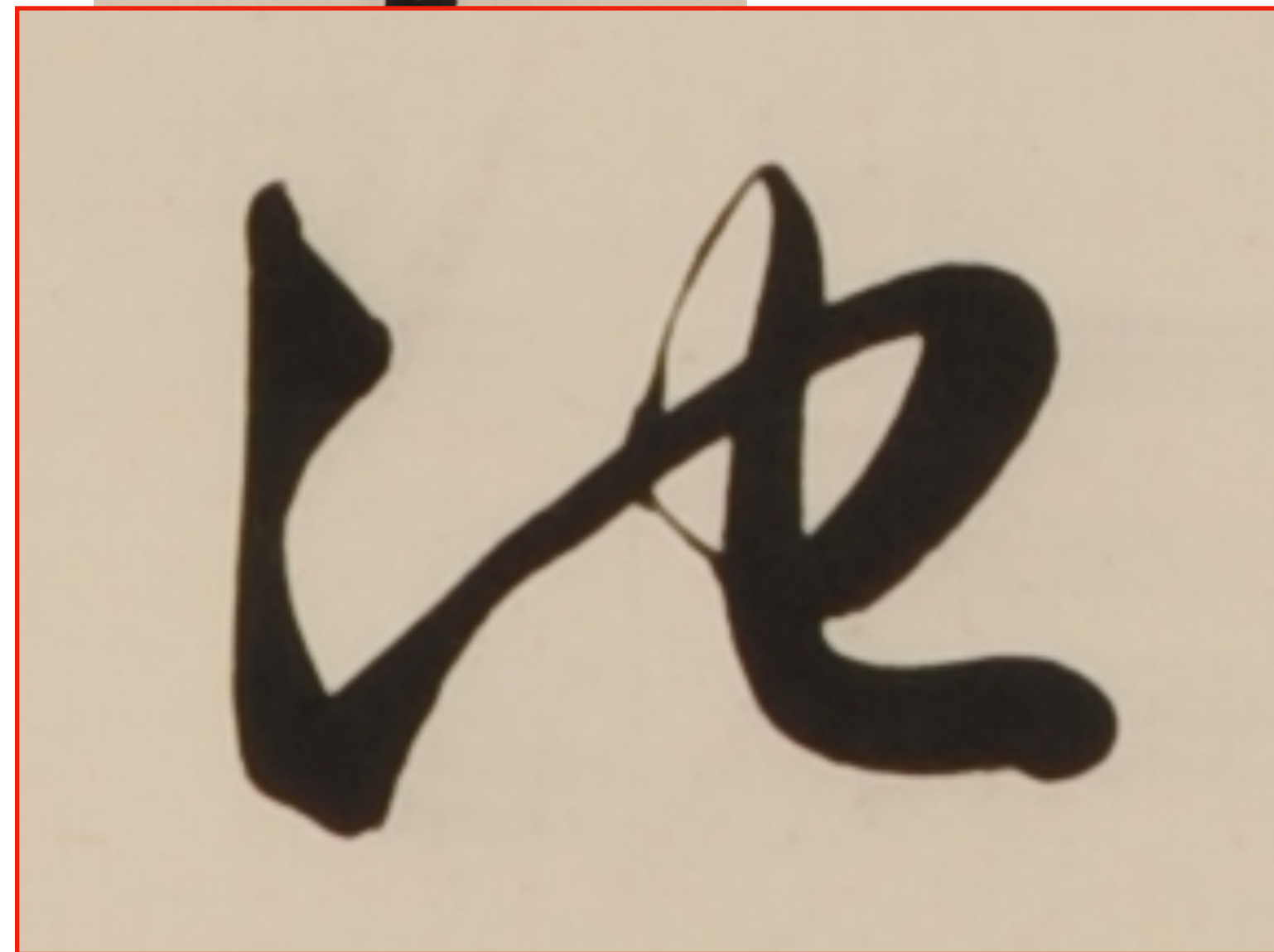
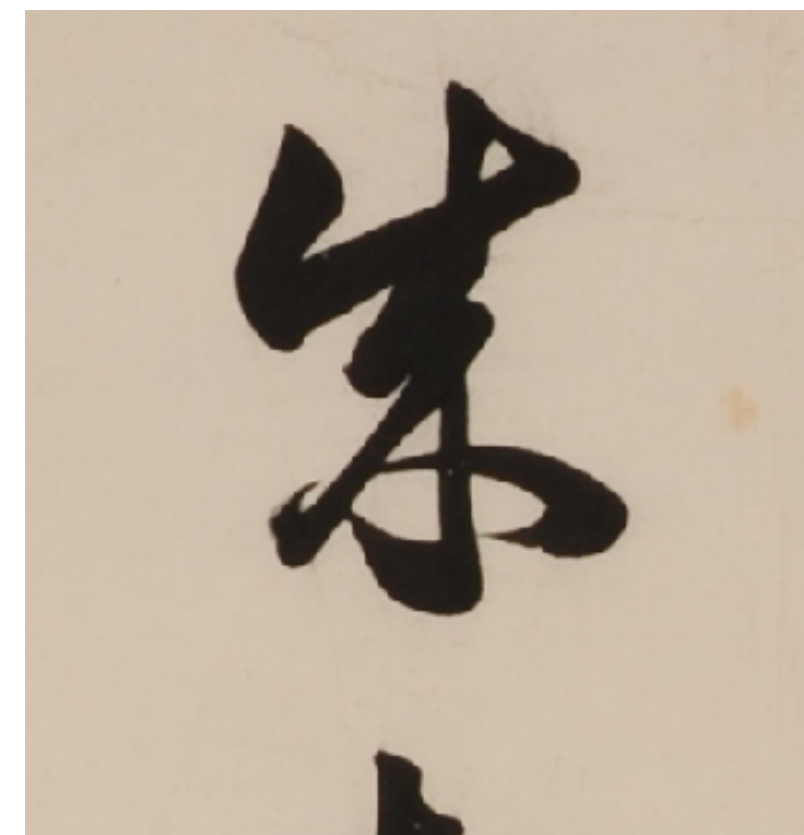
宋伯魯

成
都
城
池

細くなるが、
転折の後太く
ならない



王羲之《十七帖》



宋伯魯

成都城池

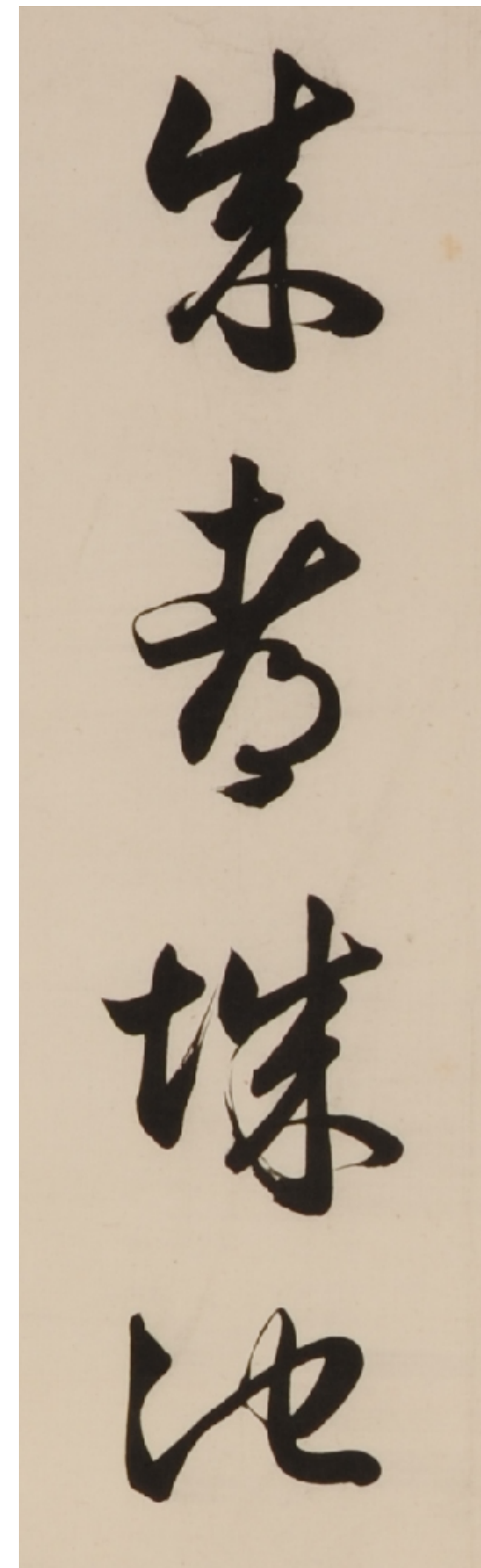
字間／行間に
粗密の差が大
きい

躍動感のある
字形

肥瘦の変化が
大きな線



王羲之《十七帖》



宋伯魯

成
都
城
池

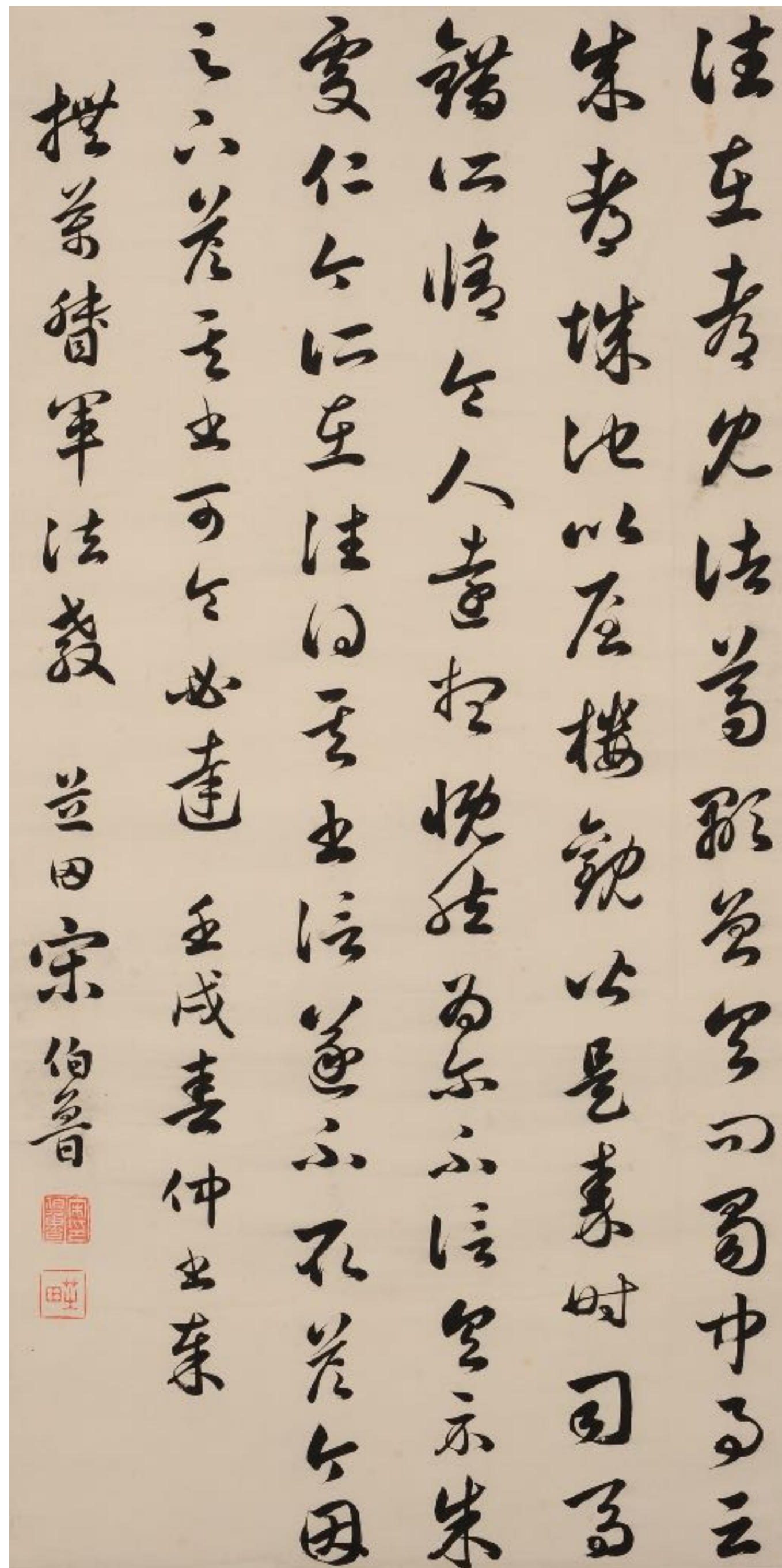
字間をほぼ一定にとり
行間を狭くしない
＝文字が整然と並ぶ
紙面構成

安定感のある字形

自然な肥瘦がある線

「臨書」なのに
手本に似てなくても
良いの？

「臨書」は
手本の「何」を
写しているの？



宋伯魯（1854～1932）

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》

中華民國11年（1922）紙本墨書、

82.5×41.0cm、觀峰館藏

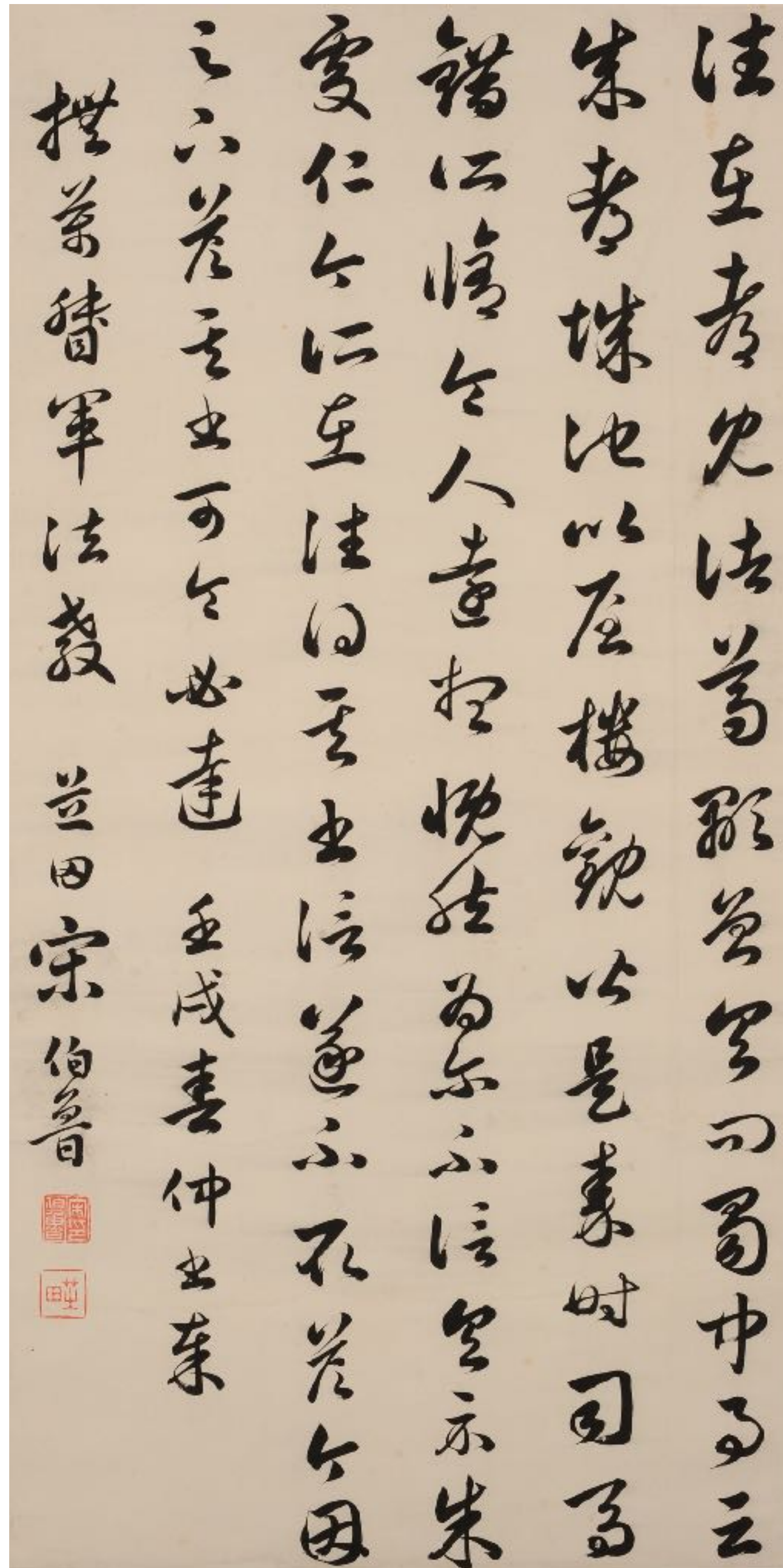
臨書で写すもの

中国の書論より

- 臨書は古人の書における「位置」（＝正確な字形や配置）を失いやすいが、古人の「筆意」（＝古人の制作意図や書の趣）を得ることは多い。
- 搨摹（敷き写し）は、古人の「位置」は得やすいが、「筆意」を失うことが多い。
- 臨書易失古人位置、而多得古人筆意。模書易得古人位置、而多失古人筆意。
- 南宋の姜夔（1155?～1221?）『続書譜』
- 本文は、影宋本『百川学海』（同志社大学人文科学研究所蔵）を参照。

「臨書」なのに
手本に似てなくても
良いの？

「臨書」は
手本の「筆意」を
写している



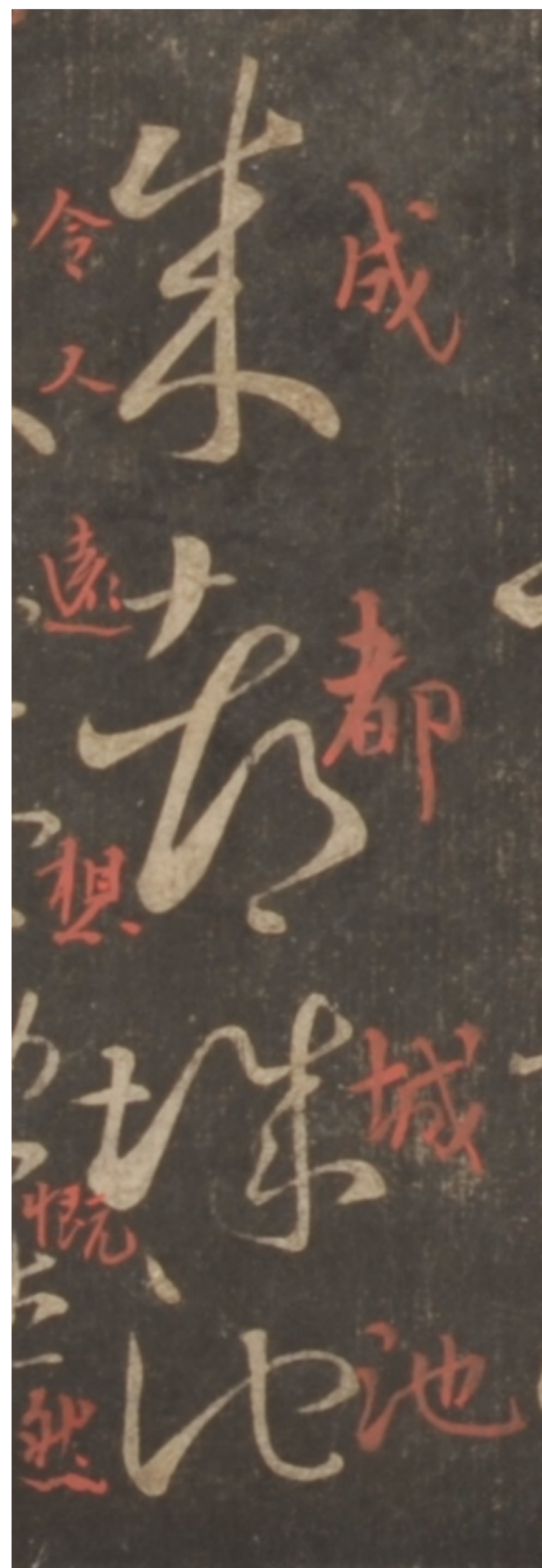
宋伯魯（1854～1932）

《草書臨王羲之成都城池・朱処仁帖軸》
中華民國11年（1922）紙本墨書、
82.5×41.0cm、觀峰館藏

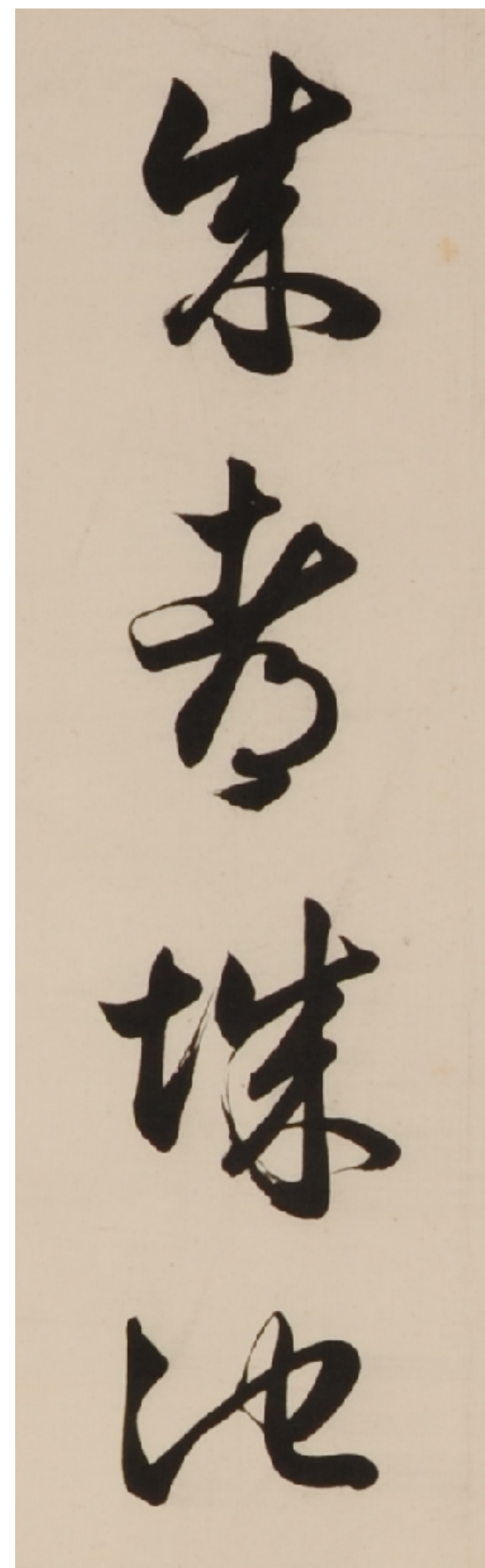
王羲之の書＝真跡
が残っていない

いつの時代でも
「理想の書」の
代名詞

どう解釈するか＝
書家の表現



王羲之《十七帖》



宋伯魯

成都
城池

王羲之の書を、

- 文字が整然と並ぶ
紙面構成
- 安定感のある字形
- 自然な肥瘦がある線

と解釈した臨書。

おわりに

講座の流れ

はじめに

王羲之《十七帖》について

観峰館の臨書作品について① 作品鑑賞

観峰館の臨書作品について② 比較分析

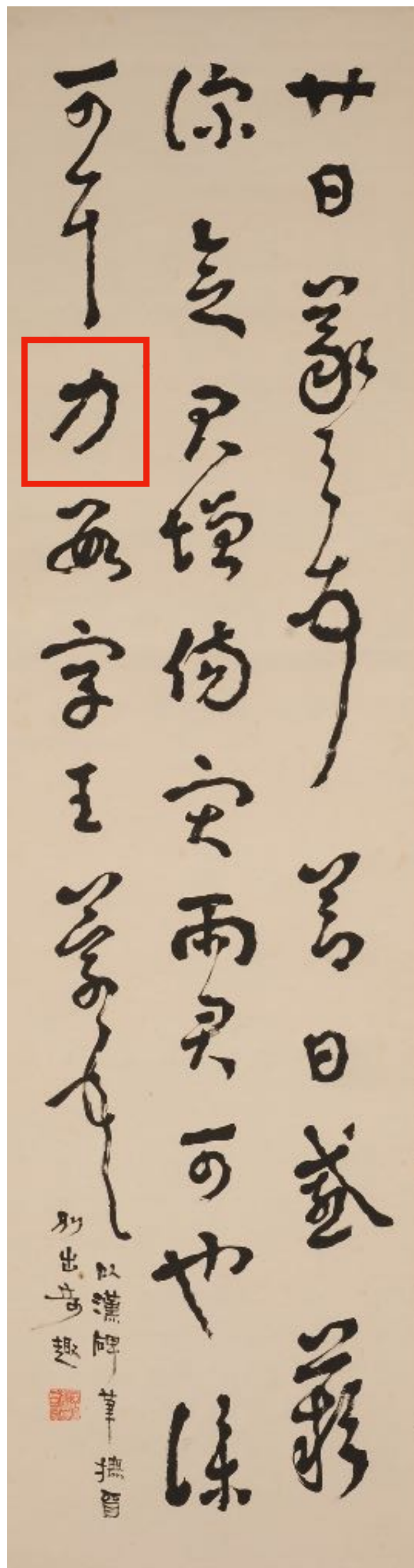
おわりに





震えるような線で臨書する

中華民国初期に流行した
「鋸体」



観峰館が所蔵する
他の臨書作品

李瑞清 (1867~1920)

《草書臨王羲之節日・僕可帖軸》

清時代末期~中華民国初期頃、紙本墨書、

148.4×39.3cm、観峰館蔵